

URBAN DESIGN CENTER
MATSUYAMA
ANNUAL REPORT
2019

松山アーバンデザインセンター
年間報告書 2019

目次

はじめに	04
プロジェクトマップ	06
1. 空間デザインマネジメント	08
1-1. 松山 2060 ヴィジョン	10
1-2. 松山市駅前空間改変事業	18
1-3. JR 松山駅周辺整備事業	22
1-4. スマートシティプロジェクト	28
1-5. その他	31
(1) 道後地区のデザイン検討	32
(2) ロープウェー通り自転車誘導サイン検討	33
(3) シェアサイクルの色検討	33
2. プログラムデザイン	34
2-1. 松山市中心市街地賑わい再生社会実験	36
2-2. アーバンデザインスクール	44
2-3. メディア制作	51
3. 研究活動	56
3-1. アーバンデザイン研究会	58
3-2. 社会実験効果検証	60
3-3. 既成市街地型 UDC 研究会	64
3-4. ビジネスツーリズム研究	65
おわりに	66
資料	69
・活動履歴	70
・論文、講演、委員、受賞等	74
・運営体制	76

はじめに

アーバンデザインとは何か？

センター長 羽藤 英二

UDCMは人である。人がまちと場所を結びつけ、デザインによって人々の暮らしを支える、そんな信念に基づいて活動している組織だ。初代ディレクターの片岡由香さん、2代目の小野悠さんが、その基礎をつくった。彼女たちが獅子奮迅の働きをしたことで、UDCMは軌道にのったとっていい。私自身は月に数回松山と東京を行き来しながら、松山の都市設計に取り組んでいるが、地元で動ける強力なパートナーが必要だった。なぜか。デザインというふわふわした言葉だけでは、新たな都市像を描くことも、それを実現することも不可能だからだ。私は二人に、みんなの広場と花園町通り、道後温泉飛鳥乃湯泉の現場を託すことにした。かくして、二人は博士をとったばかりの身で松山に赴任し、子育てをしながらアーバンデザインに挑戦することとなったのだ。

UDCMを立ち上げる前、城下町から近代的な社会空間を外部挿入した松山の市街地は、戦災復興から平成に入ってから郊外化に舵を切った結果、空洞化が進んでいた。私には、松山が新たな都市像を求めているように思えたが、新たな都市像といっても、どこから手をつけるべきか、頭を悩ませていた。都市マスタープランの着手を契機として、まちなかの銀天街の脇の広場と、市駅の横の花園町通りを目定め、駐車場の広場化と道路空間のリデザインを連鎖させるプランを構想した。しかし、現実には、広場化しようとする敷地周辺にはさまざまな人々が暮らしや商いを営んでおられるわけで、花園町通りのような大きなプロジェクトともなれば時間もかかる。市長と都市整備部のメンバーとの信頼関係はできたものの、当時プロジェクトはどれも五里霧中の状態だったと言っていい。

当時の片岡さんは、京都大学の景観研究室で、近江八幡の地域マネジメントにおいて人々の協働はなぜ生まれるのか、学術的に困難な研究テーマに挑戦する一方で、

高齢化が進む団地のリノベーションの実践に取り組んでいた。現場で起こる様々な出来事に対する柔軟な対処、高い専門性を持ちながら、丁寧に相手の話を聞くことで事態を解決に持ち込む力量、時折聞く彼女の話から、彼女のまちづくりにたいする熱心な態度を窺い知ることが出来た。私は彼女の稀有なセンスを見込んでUDCMの初代ディレクターとして白羽の矢を立てた。

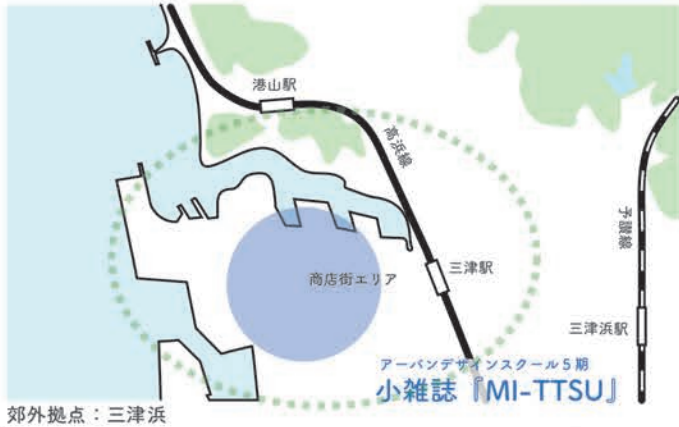
みんなの広場も、花園町通りも、道後温泉飛鳥乃湯泉も、紆余曲折があった。今となってみれば、笑噺だが、空間設計やデザイン以前に、現場での調整や、市民参加の機運づくり、仕組みを支える制度の調整役の仕事はたいへんだった。松山のまちなかに、いかにしてデザインのエッセンスを埋め込むか。毎晩のように続くWSや市民活動、相次ぐ反対やトラブル、その合間に論文に取り組み、図面を描くことは、生半可なことではなかっただろう。だけど、現場に近いところで研究に取り組み、論文を同時並行的に進めたことで、片岡さん自身が、愛媛大の講師として採用され、長期間にわたってプロジェクトに関わってもらうことができた。それと同時にUDCMの活動も軌道に乗っていくこととなる。

片岡さんの異動に伴い、2代目のディレクターの公募を行っていたところ、本郷の私の研究室に小野悠さんがふらっと現れた。彼女は当時東大の都市工学科の博士課程で、アフリカのインフォーマルな土地利用の研究に取り組んでいた。彼女は一人でスラムのフィールド調査に取り組むような現場主義の研究者の典型だった。なぜUDCMに関心を持ったのかと、彼女に尋ねると、小野さんは、真っ直ぐに私の目を見て、現場に近いところで研究したいのですと応えたことが印象に残った。研究と実践を未分化な状態において、今までにない都市デザインを実現したい。彼女の持っている高い現場能力に賭けてみようと考えた。

当時のUDCMは片岡さんの活躍もあり、ようやく軌道に乗ったとはいえ、みんなの広場も一進一退で地元から全面的に受け入れられだとはいえない状況にあった。花園町通りの現場も実施設計に向けて動きは止まっていた。道路空間の再配分は、車社会という現実の暮らしに対して、なかなか受け入れがたかったこともあるのだろう。道後は道後で、商店街と旅館組合の意思統一もなかなか一筋縄ではいかなかった。ときどき小野さんと話すと、研究と現場、地元との間で悩んでいるのが伝わってきた。プロジェクトが動かないときは、潮目がまるで止まったよう動かない。複数のプロジェクトを見定めながら、異なる敷地で、地元との間に一つずつ信頼関係を築いていく。日々の地道な積み重ねに、彼女が訥々と取り組んでいたことが印象に残る。

グローバル化が進む東京と、人口減少が進む松山では、地域資源や自動走行の活かし方ひとつとっても異なる作法が必要だろう。COVID-19で転換する松山の可能性を、連鎖しなから進めている公共空間とスマートシティのコンセプトをもとに、市長と私、片岡さんと小野さんも登壇して、東大の都市スタジオや愛媛大の学生さんの成果を踏まえてみんなで話し合った。UDCMのリサーチアーキテクトたちによる街路空間と広場の連鎖型リデザインプロジェクトは国内外で数々の賞を受賞し、路上文化活動や教育プログラムの実践は、松山に固有の風景を大切にしながらその地域像を描きかえ、ディレクターによる挑戦的な取り組みと市職員と地元有志の参加によって進められている。皆さまの支援に心よりお礼申し上げます。

2019年度のプロジェクトマップ



郊外拠点：三津浜

空間デザインマネジメント (2018-) 松山 2060ヴィジョン

今年度は、松山の将来の都市空間像の検討を目的にアーバンデザインスタジオ（設計演習プログラム）を企画し、各テーマで学生とともに提案をまとめた。またヴィジョンの要点を検討し、今後の検討課題を整理した。

スタジオ対象地

空間デザインマネジメント (2018-) 松山駅まち会議

松山市が主催する「松山駅まち会議」に委員として参画し、基本計画案の策定を支援した。

空間デザインマネジメント (2018-) 松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会

松山市の主催する JR 松山駅周辺まちづくり土地利用勉強会に参画し、「よいまち」等の公共空間利活用の取組を支援した。



「よいまち」開催の様子



もぶるラウンジ



道de遊ぶ



道de学ぶ

プログラムデザイン (2018-) 松山市中心市街地賑わい再生社会実験（花園町）

まちづくり拠点である「もぶるラウンジ」の企画運営を行うとともに、2017年にリニューアルされた花園町通りの活用プログラムの企画実施を行なった。

空間デザインマネジメント (2018-) 松山市駅前商店街勉強会

将来的な市駅前広場の空間改変に向け、松山市駅前商店街が主体となったまちづくり勉強会を開催し、まちづくりのコンセプトに必要な知見を収集・分析。松山市への提言をとりまとめた。



勉強会の様子

UDCM (もぶるラウンジ)

2019.3.31



スタジオ、エスキス風景



最終講評会の様子

空間デザインマネジメント (2018-)
道後温泉本館保存修理工事を活用した
観光資源化 (情報発信) 事業

松山市が行う道後リボーンプロジェクトや道後温泉地区のサイン改修の取り組みに関して助言し、事業のサポートを行った。



道後温泉本館

道後温泉本館

空間デザインマネジメント (2019-)
松山スマートシティプロジェクト

データを活用した都市計画・まちづくりの方法論を確立することを目的に、松山市や民間企業とコンソーシアムを設立し、国土交通省のスマートシティモデルプロジェクトとして今後の構想検討を行った。



意見交換会の開催

道後公園
アーバンデザインスクール 4期
夕焼けベンチ in 宝厳寺

観光拠点：道後温泉

道後公園

松山城

空間デザインマネジメント (2019)
ロープウェー通り
自転車注意喚起サインの設置

ロープウェー通りでの自転車注意喚起のためのサイン設置位置検討及びサインデザインを行った。

空間デザインマネジメント (2018-)
一番町再開発

一番町一丁目・歩行町一丁目地区で進められている市街地再開発事業。適宜情報共有を行っている。

空間デザインマネジメント (2017-)
銀天街し字地区再開発

銀天街し字地区で進められている市街地再開発事業。適宜情報共有を行っている。



まちラヂ収録風景



もぶるマガジンの表紙
プログラムデザイン
(2014-)

情報発信

市民編集部によるまちなかマガジン「もぶる」の発行、FM 愛媛の15分番組「まちラヂ」の放送等、まちなかの情報発信を行なった。

銀天街商店街

大街道商店街

アーバンデザインスクール 5期
GET! でまちキャン

IB UDCM
(みんなのひろば・もぶるテラス)

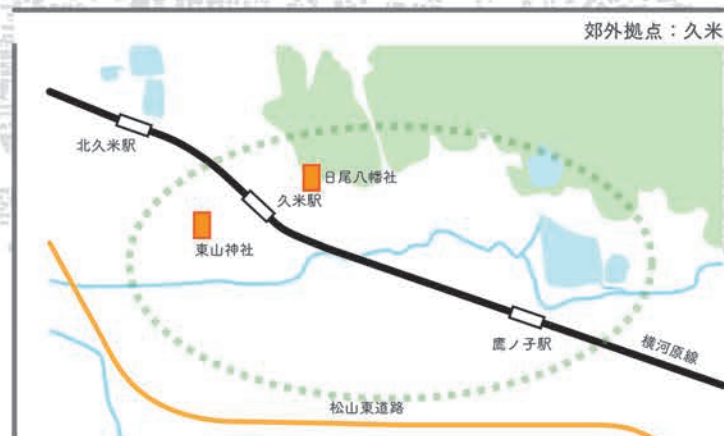


基礎編まち歩きの様子

プログラムデザイン (2014-)
アーバンデザインスクール

新たに高校生を対象に加え、今年度は30名が6グループに分かれて活動を実施した。
※詳細は UDS 報告書を参照

郊外拠点：久米

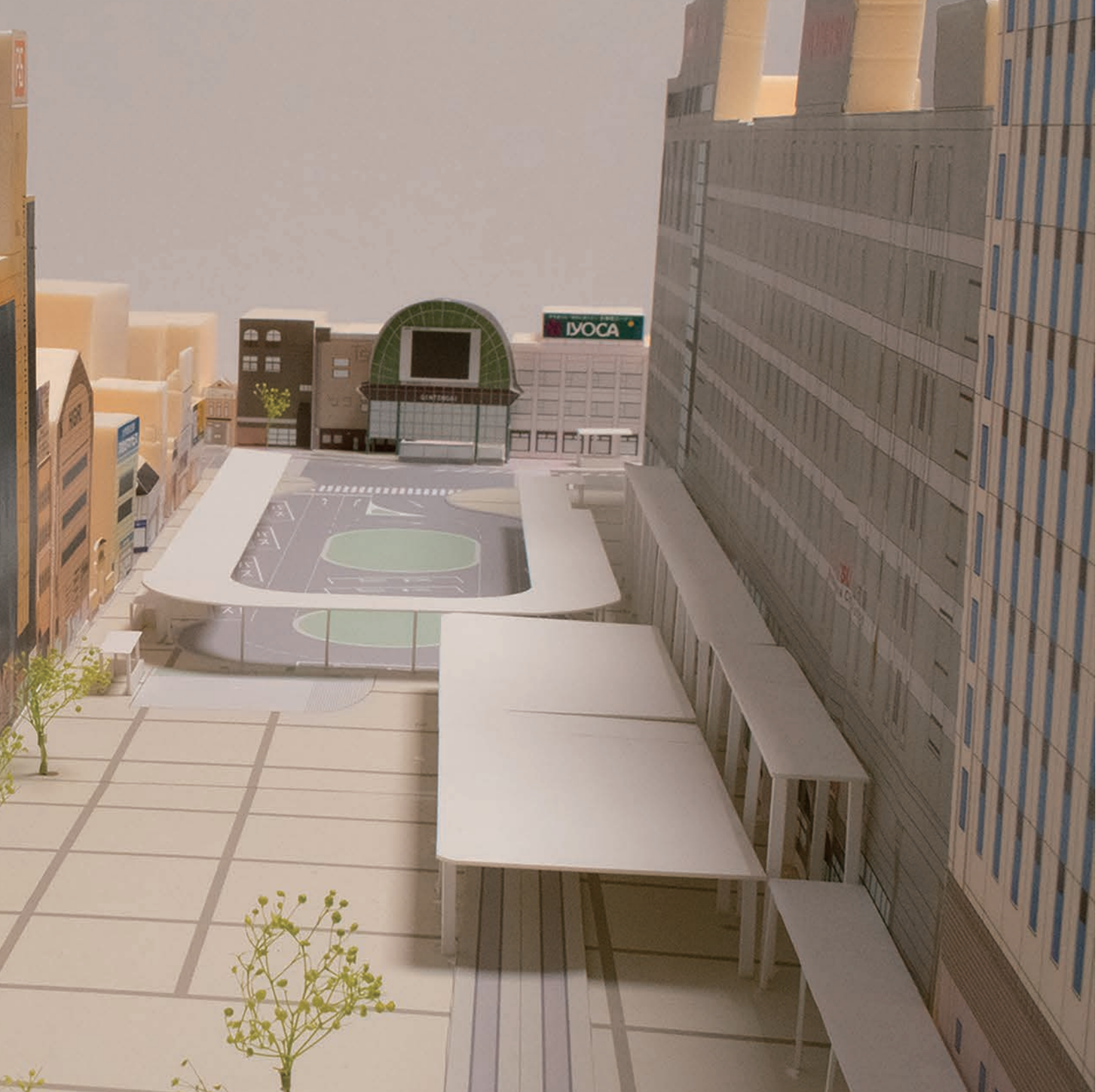




01

空間デザインマネジメント

SPACE DESIGN MANAGEMENT



1-1. 松山 2060 ヴィジョン

1-2. 松山市駅前空間改変事業

1-3. JR 松山駅周辺整備事業

1-4. スマートシティプロジェクト

1-5. その他

(1) 道後地区のデザイン検討

(2) ロープウェー通り自転車誘導サイン検討

(3) シェアサイクルの色検討



1-1 | 松山 2060 ヴィジョン

公民学が連携してまちづくりを進めていくための
長期的な将来ビジョンを検討するプロジェクト。
今年度は、都市デザインスタジオを実施し、愛媛大学学生とともに松山の駅と商業集積地を対象に将来像の検討を行なった。

(1) 都市デザインスタジオ

今年度は具体的な検討、リサーチを行うことを目的とし、都市デザインスタジオ（設計演習プログラム）を開講した。愛媛大学の学生及び社会人が参加し、年度末までに計2回開催。それぞれ駅、商業集積地（商店街）をテーマとして、各地域の歴史分析から将来像の提案までを行った。

URBAN DESIGN 2060 STUDIO

01

キーワード：
都市・建築計画、ランドスケーププランニング
交通計画、防災計画、都市空間分析

都市ビジョンの構築に向け、設計スタジオ
を開講します。今回のテーマは「駅」です。
2060年の都市の将来を具現化、駅周辺の都市
空間のあり方を検討します。

松山アーバンデザインセンター 都市デザインスタジオ 2019
駅周辺の都市空間デザイン

●特別講師
筑波大学 東京大学 筑波大学 筑波大学 筑波大学 筑波大学 筑波大学

●講師
松山大学 松山大学 松山大学 松山大学 松山大学 松山大学

●定員
16名

●デザインのプロセス
01 | 事前調査
02 | 対象地分析
03 | 駅周辺都市空間の計画案策定

●スケジュール schedule
期間：2019.3.10 (土)～2019.6.30 (日)

●申し込み・問い合わせ 締切：2/24 (日)

UDCM Urban Design Center
Matsuyama

募集告知フライヤー

1) 「駅周辺都市空間のデザイン (2019 年度前期)

2019年度前期は、「駅」を対象とした設計演習プログラムを実施し、社会人2名、愛媛大学学生10名が参加した。対象地は「松山市駅」「JR松山駅」「久米駅」の3地区とした。2019年5月6日現地調査を行い、週1回のエスキースを3ヶ月間行った上で、8月4日に最終講評会を開催した。



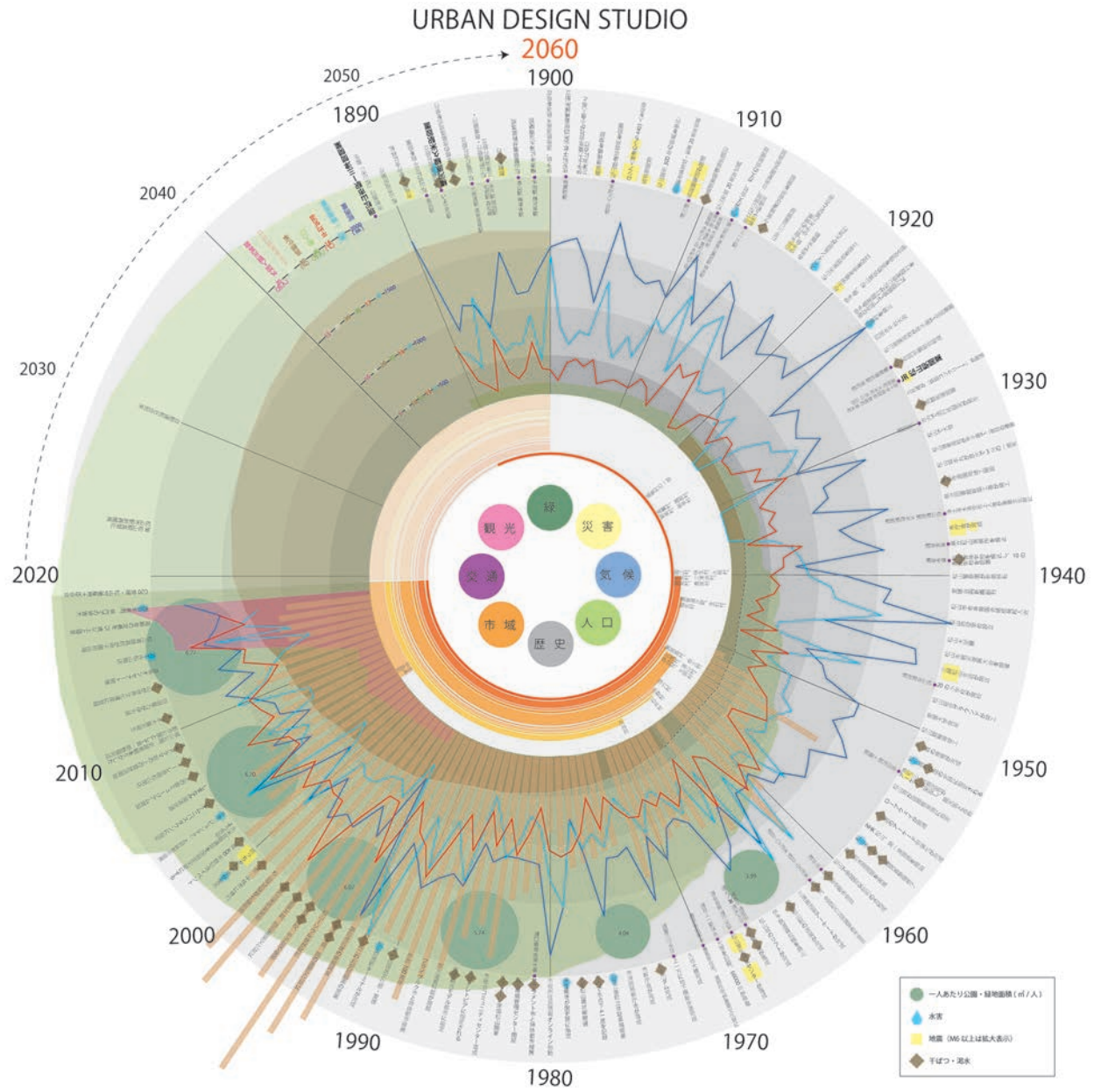
松山駅周辺の視察の様子



エスキースの様子



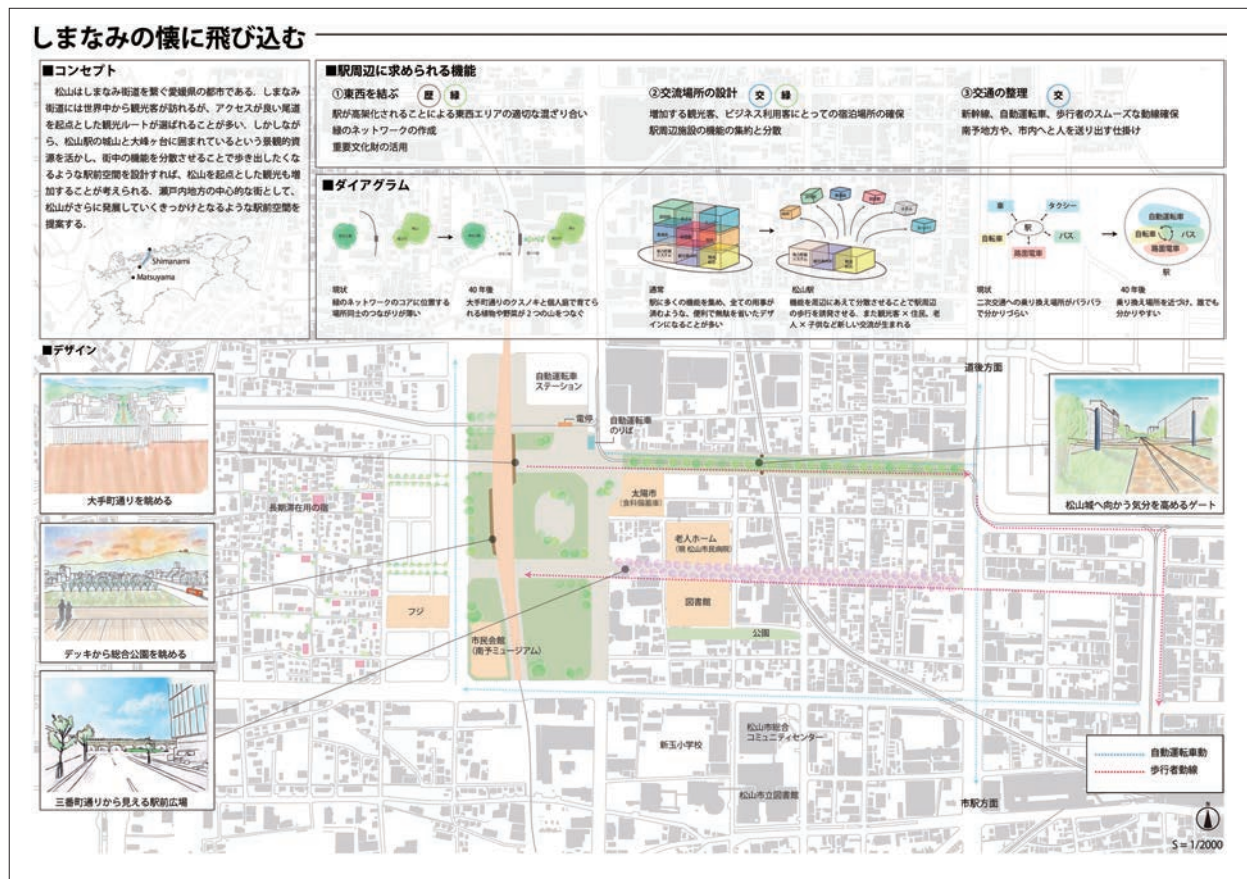
最終講評会



松山の1880-2060年表

JR松山駅を対象としたグループは、まず新幹線の開業を想定した駅乗降客数の将来的な推計を他都市の先行事例との比較から算出し、将来的な交通結節点としての位置付けを整理した。また、駅周辺の景観的特徴及び緑地分布の実態把握と、都市形成過程から歴史的な道

の価値を構築し、今後の景観形成課題を明らかにした。その上で、高架化された駅の東西エリアを緑のネットワークで結びつけ、このネットワーク上に駅に付帯する機能を分散配置する計画を、交通サービスの考え方とともに提案した。



JR 松山駅の提案 (一部)

Urban Design Studio 2020 Study 駅周辺の都市デザイン

40年後の松山市駅「まちなか玄関口、まちなか全体の賑わいを」

■流れのダイアグラム

従来の流れ 自然の流れ
交通の流れ 人の交流の流れ
防災の流れ

■区分とコンテンツ

40年後の松山市駅を取り巻く地域の賑わいを大きくする3つの区分に対し、それぞれに対して必要なコンテンツを、具体的な内容や機能について整理しを行ったこと。ものものしいコンテンツの整理を整理し、軸や節の中心として都市の賑わいを考え、松山市駅を中心とする都市の賑わいを考え、松山市駅を中心とする都市の賑わいを考えること。また、松山市駅を中心とする都市の賑わいを考えること。また、松山市駅を中心とする都市の賑わいを考えること。

■コンセプト「まちなかの玄関、求心力を持って街中へ人を送り出す」

松山市駅は松山市に住む市民が市内で活動を行うための重要な玄関口となる。特に中心地にとって重要な役割は、歴史も深く賑わいを生み出す大商店街、観光客の目玉となる松山公園と松山公園、外から人を引き寄せる「松山駅」などである。その賑わいは40年後も人が活発に、賑わいを生む。松山市駅は人が集まり、各々が目的の場所へと足を運ぶための交通の結節点となる。そこで、これまでに松山市駅が人の流れや環境を分析して現状を見直し、多様な流れを許容する形状となるよう心がけた。また、必要なコンテンツを駅内部だけでなく外部へと配分することで人の流れを誘発し、人を街中へと送り出していくことを目的とした。

■松山市駅と降水

松山市駅は松山市に住む市民が市内で活動を行うための重要な玄関口となる。特に中心地にとって重要な役割は、歴史も深く賑わいを生み出す大商店街、観光客の目玉となる松山公園と松山公園、外から人を引き寄せる「松山駅」などである。その賑わいは40年後も人が活発に、賑わいを生む。松山市駅は人が集まり、各々が目的の場所へと足を運ぶための交通の結節点となる。そこで、これまでに松山市駅が人の流れや環境を分析して現状を見直し、多様な流れを許容する形状となるよう心がけた。また、必要なコンテンツを駅内部だけでなく外部へと配分することで人の流れを誘発し、人を街中へと送り出していくことを目的とした。

■設計の意図

40年後には自動運転が普及しているため、駅として自動運転に対応することは必須の条件である。中心市街地は自動運転が普及するにつれて、移動は徒歩が小型の交通を想定した。市駅西側の自動運転専用ステーションを駅前に設け、市内交通を制御する。市駅西側の自動運転専用ステーションを駅前に設け、市内交通を制御する。市駅西側の自動運転専用ステーションを駅前に設け、市内交通を制御する。

■提案の流れ

■平面のイメージ

■立面のイメージ

松山市駅の提案（一部）

URBAN DESIGN STUDIO MATSUYAMA 2020

クメオルト

久米は松山市の山手地区に位置し、緑豊かな、高層ビルが立ち並ぶ。駅は山手地区の玄関口として、駅周辺は賑わいを生み出す。駅周辺は賑わいを生み出す。駅周辺は賑わいを生み出す。

■クメオルトについて

KUR + ORT
KURORT

■4つの役割について

■クメオルトについて

KUME + ORT
久米駅周辺の賑わい
KURORT

■久米独自の資源

■クメオルトの流れ

■緑林を潤育できる空間

■新たな法と歴史的な建築物

■水辺が憩い場へ

■駅前広場と川広場

■駅前広場（巨尾八幡神社-久米小学校まで）

■駅前広場と川広場

久米駅周辺地区の提案（一部）

2019年度後期は、「商業集積地」を対象とした設計演習プログラムを企画し、愛媛大学の学生10名が参加した。対象地は、「銀天街・大街道商店街」「花園町通り・大手町通り」「萱町商店街」「三津浜」の4地区とした。2019年11月4日、12日に現地調査を行い、週一回のエ

スキースを3ヶ月間続け、2020年1月17日に中間講評会、2020年2月23日に最終講評会を開催した。



エスキースの様子



左：中間講評の様子 / 右：ゲスト講師からの中間講評



最終講評会の様子

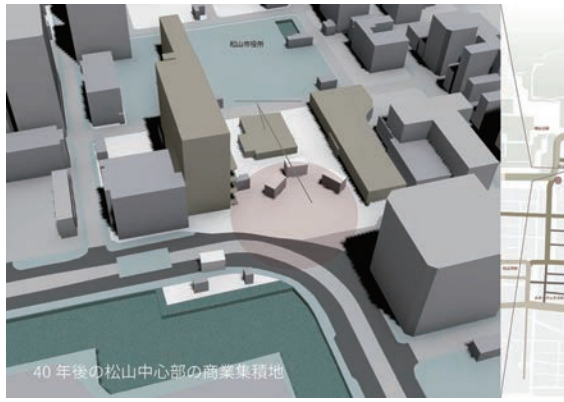
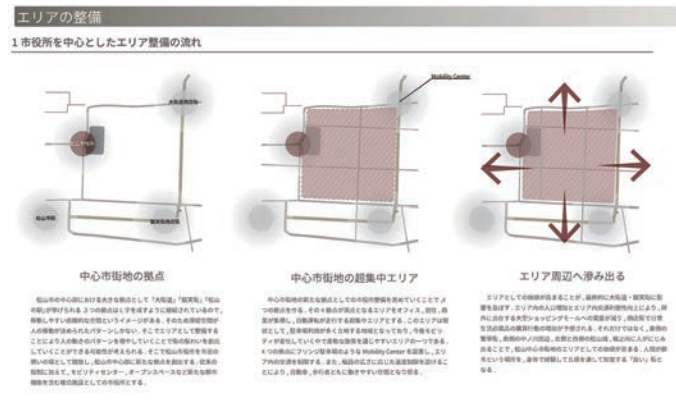


「大街道・銀天街」を対象としたグループは、中心市街地の交通インフラや施設立地状況を分析した上で、松山市役所周辺を新たな交通結節点として位置付け、松山市駅、銀天街L字地区、一番町大街道口、松山市役所を結ぶ公共交通ネットワークを形成することによる中心市街地の活性化方針を提案した。

「大手町通り・花園町通り」を対象としたグループは、JR松山駅と松山市駅の分断を問題意識として、それらを結ぶ観光文化の軸と健康生活の軸で構成される歩いて暮らせる駅まちの動線計画を提案した。

「萱町商店街」を対象としたグループは、萱町周辺地区の人口集積と高齢化に対応するための商店街のあり方として、需要に合わせて入れ替え可能な建物活用システムの導入と、周辺の駅や城山公園など、生活・活動の豊かさを担保する周辺施設との歩行空間ネットワークを形成する提案を行った。

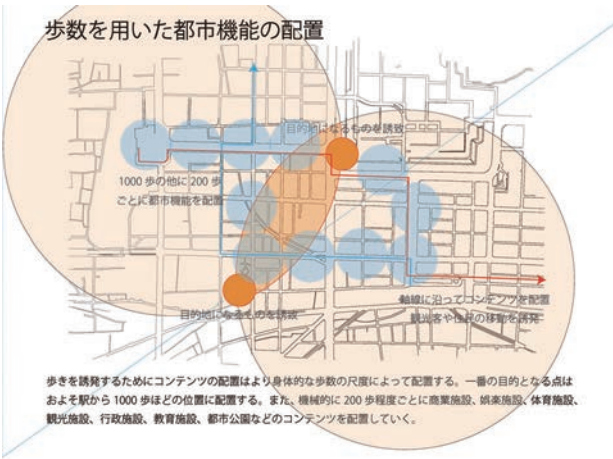
「三津浜商店街」を対象としたグループは、海と暮らす商店街をコンセプトに、商店街と海、住宅エリアを結ぶ動線ネットワークの形成と、ポテンシャルのある海辺の空間整備のイメージを提案した。



大街道・銀天街の提案 (一部)



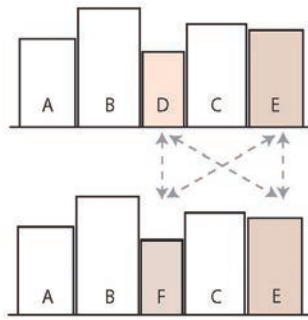
大手町通り・花園町通りの提案 (一部)





萱町商店街の立地特性

店舗の組み合わせの例と入れ替え



交流店舗は週1~5回といった不定期なサイクルで経営される。但し、交流店舗の休業日は店舗がシャッターで閉まるのではなく、別の店舗に入れ替わる仕組みであり、商店街は日によって違った顔を見せる。隣り合った店舗が変わることで店舗が持つ特徴どうしを編むこととなる。

三津浜 - 海と暮らす商店街

三津浜は郡山中心部から4kmの場所に位置しており、緑豊かな自然環境に恵まれており、かつての商店街は自然環境と共生する形で発展してきた。近年は緑豊かな自然環境が魅力の一つとして、観光客や移住者が増え、商店街の活性化が期待されている。商店街の活性化は、地域の活性化につながる重要な役割を果たしている。

1. 商店街の賑わい
商店街の賑わい
商店街の賑わい

2. 三津浜の海
三津浜の海
三津浜の海

3. 商店街の賑わい
商店街の賑わい
商店街の賑わい

4. 商店街の賑わい
商店街の賑わい
商店街の賑わい

5. 商店街の賑わい
商店街の賑わい
商店街の賑わい

6. 商店街の賑わい
商店街の賑わい
商店街の賑わい

7. まちと海を結ぶ
まちと海を結ぶ
まちと海を結ぶ

8. 海の魅力を伝える
海の魅力を伝える
海の魅力を伝える

■商店街と暮らし

商店街と暮らしの相乗効果

商店街と暮らしの相乗効果

商店街と暮らしの相乗効果

■緑地整備による事前復興

problem 1 | 人口減少と低住居

problem 2 | 災害リスク

pattern 1 | まちへの居住誘引

pattern 2 | 住居の移転

■海岸部の利活用

市場による商店街への波及効果

商店街と暮らしの相乗効果

商店街と暮らしの相乗効果

商店街と暮らしの相乗効果

三津浜地区の提案（一部）



1-2 | 松山市駅前空間改変事業

松山市駅周辺の都市デザインについては、松山市が行う駅前広場の空間改変に対して専門家の立場から必要な助言を行うとともに、昨年度より実施してきた市駅前商店街組合とのまちづくりに関する勉強会（正式名称は、松山市駅前商店街ロータリー改変提言勉強会。以下、勉強会と略す。）を継続・発展させ、整備後のまちづくりコンセプトや商店街の将来イメージ等に関する検討を深めていくことを目指した。

(1) 松山市駅前商店街勉強会

1) 勉強会の開催概要

この勉強会においてUDCMの果たした役割は、①勉強会のファシリテート、②各種先進事例の紹介、③都市デザインに関するアドバイス、④駅前広場の将来イメージに関する模型製作、⑤松山市関係部署との情報連携の5点に整理される。勉強会の開催日と議題および成果は右記の通りである。なお、これらに加えて、議論の成果を踏まえて地元から松山市へ提言がなされている。

<勉強会の開催日と議題>

2019.4.3	第0回勉強会 昨年度のとりまとめ
2019.5.7	第1回勉強会 今年度の目標設定
2019.6.3	第2回勉強会 提言の内容について議論
2019.7.24	第3回勉強会 総会における質疑を踏まえた 提言の内容の検討深化
2019.8.19	第4回勉強会 DGの意義・スケジュールについて議論
2019.9.26	第5回勉強会 アーケードの撤去について議論
2019.10.30	第6回勉強会 DGの事例紹介、模型を用いて今後の論点を抽出
2019.11.25	第7回勉強会 模型を用いてDGの必要性・方向性について議論
2019.12.17	第8回勉強会 日除けの事例研究、DGの全体構成案の議論
2020.1.22	第9回勉強会 今後のスケジュールについて議論、DGの事例研究
2020.2.12	第10回勉強会 今後のスケジュール・アーケードについて議論
2020.3.25	第11回勉強会 今年度のとりまとめ

※ DG：デザインガイドライン

<勉強会の成果>

- A. 「まちづくりのコンセプト」を立案
- B. アーケード撤去の具体的方針の検討
- C. 駅前広場のデザインに関する意見の整理
- D. 民間建物のルール（デザインガイドライン）の検討
- E. 広場空間の利活用（エアーマネジメント）の勉強
- F. 今後のロードマップの整理

2) 駅前広場のデザイン（勉強会の成果 A, B, C 関係）

昨年度の勉強会では、駅前広場周辺の歴史的な変遷や駐輪状況の調査、また松山市が提示した駅前広場整備イメージに対する意見の整理などを行った。さらに、「30年後の松山市駅前商店街のストーリーをつくる」と題したワークショップを開催し、市駅前の将来に対するイメージを膨らませた。

今年度は、これらのふりかえりからスタートし、はじめに市駅前商店街として目指すまちづくりのコンセプトを議論した。戦前期はお日切さんの周りに人が集まれる広場的空間が複数より集まっていたことから、「人が集まれる・居られる空間を持っている」ことにこの駅前商店街の空間的特質を見出し、以下のようなコンセプト案としてまとめた。これに基づいて松山市への提言内容などがとりまとめられていった。

【市駅前商店街のまちづくりコンセプト（案）】

『お日切さん』をシンボルとした、
人が集まってくる広場のあるまちづくり

提言の詳細の紹介はここでは割愛するが、①多様な市民が集まりにぎわいの中にも居心地のよさのある空間とすること、②イベント等の活動が展開できる駅前広場空間とすること、③広場空間の積極的な管理・運営のための体制づくりをすること、④街の魅力を損なわないためのルールをつくることの4つの論点が含まれている。

この提言に書かれた認識・問題意識の下、駅前広場のデザイン（プランニング）に関する議論が進んだが、特に大きな課題として商店街のアーケードがあった。将来的には撤去を決めていたが、日除けが必要な業種は存在



図 1-2-1. 勉強会の様子

するため、どのような構造物で代替するのかが問題となった。その際、駅前広場には、アーケードの他にバスシェルターや路面電車の駅舎屋根、まつちかへの入り口など、多くの日除け・屋根が出現すると考えられるため、駅前広場における日除けのデザインや仕組み（どこまで覆うか等）は、個別検討するのではなく、全体的なバランスを踏まえながら検討することが重要になることが確認された。以下に素材別のメリット・デメリットの整理と、日除け方法の考え方の整理結果を示す。

屋根類の素材	特徴	路面電車電停	バス停	広場	まつちか入口	商店街店舗
ガラス	○下の空間がとてもし明るい ○上層階から地面が見える △地震時の危険性 ×こまめな清掃が必要 ×夏場の暑さ	× 夏場の待合いに不向き	× 夏場の待合いに不向き	○	○	× 日除けにならない
鉄	○夏場の日除けになる ○地震時の安全性 △上層階から地面は見えない △メンテナンスが必要	○	○	△ 構造物として大きすぎる	○	○
木(+鉄)	○夏場の日除けになる ○地震時の安全性 ○木のやさしい風合い ○地場産材の使用 △上層階から地面は見えない △メンテナンスが必要	○	○	△ 構造物として大きすぎる	○	○
膜(+鉄)	○比較的下の空間が明るい ○夏場の日除けになる ○膜の軽やかな存在感 ○地震時の安全性 △上層階から地面は見えない △メンテナンスが必要	○	○	○	○	○
屋根なし	○地面はとてもし明るい ○上層階から地面が見える ○地震時の安全性 ×夏場の暑さ	× 夏場の待合いに不向き	× 夏場の待合いに不向き	○	× 雨水が流入する	△ 個別の日除けが必要になる

表 1-2-2. 屋根類の素材別メリット・デメリットの整理

案の方針	案の内容
1 デザインをそろえる	商店街店舗前の日除けを、バスシェルターと同じデザインのものにする。
2 バスシェルターを広げてもらう	バス停と隣接している箇所については、バスシェルターを商店街側へ拡張してもらい、バスシェルター兼商店街の日除けとなるような構造とする。 (バス停と隣接していない箇所は、1 または 3 で対応。)
3 個別オーニングテントを設ける	商店街の店舗は、個別にオーニングテントを設ける。
4 全体に大屋根をかけてもらう	広場もふくめ、全体に大きな屋根をかけてもらう。

表 1-2-3. 市駅前商店街の日除け方法の考え方

3) 駅前広場周辺のデザインガイドライン（勉強会の成果D 関係）

提言にも書かれた通り、今後建て替えなどの可能性もある駅前広場周辺の建物について、一定のデザインガイドラインをつくることの重要性が共有された。つまり、建物のカタチを整えるだけで、ポテンシャルの高い市駅前エリアは価値が上がる一方で、ひとつの建物でイメージを台無しにしてしまうこともあるため、デザインガイドラインが必要であるという認識である。

この認識に基づき、UDCMにて模型を製作し、複数パターンの建物模型に基づいてガイドラインの議論を進めた。以下に検討に用いた模型写真を示すが、建物はあくまで検討のための設定で、これらの建物が建つことを示すわけではない。また、駅前広場のデザインは、2018年に公表された市の構想案を踏襲している。（ただし、まつちかタウンへの入り口の表現は簡略化している。）

以上の模型検討の結果、落とし所としてはパターン②のあたりが妥当であるとされた。ガイドラインとしては、このパターン②の考え方を文章として表現することが求められる。これについて議論し、以下の原則（ガイドラインの下敷きとなる考え方）が導かれた。

<市駅前商店街のデザインガイドラインのアイデア>

- ・広場と一体的に建物のカタチを考慮することで、広場と建物内空間の相乗効果をねらうこと。
- ・1,2Fは、広場側ににぎわいがにじみ出すようなファサードにする。
- ・3Fは、テラスを設けるなど広場側への眺めを楽しめる場所を設けるとともに、建物のボリューム感を和らげるために、壁面後退などで4F以上と分節する。
- ・4F以上は、シンプルな外観とする。

●現況

- ・圧迫感はないが、高さが不揃いであることが目立つ。
- ・容積的にかなり余裕がある。

●パターン①：再開発ビル・壁面後退なし

- ・1-2Fと上層階でデザインを大きく変えて分節し、高層の再開発ビルの圧迫感を軽減した案。
- ・まだ圧迫感が強いという意見があった。

●パターン②：再開発ビル・壁面後退3Fのみ+3Fテラス化

- ・パターン①のアイデアに加え、3Fを壁面後退しテラスとする（駅前広場のアクティビティを眺める視点場とする）ことで分節を強化。
- ・他の建物についても、建替時に3Fに広場を眺めるテラスをつくり、テラス同士を空中で連結してはどうか、という議論で盛り上がった。

●パターン③：再開発ビル・壁面後退3Fまで+3Fテラス化

- ・パターン②のアイデアに加えて、1-2Fも壁面後退をし、建物足下に人が寄り付きやすい場所をつくりやすくした案。
- ・ここまで壁面後退しなくてもよいのでは、という意見があった。





1-3 | JR 松山駅周辺整備事業

JR 松山駅周辺整備に関して、松山市の主催する松山駅まち会議に委員参画するとともに、昨年度から続く松山駅周辺住民や地権者、事業者、関係する市民による勉強会（正式名称は、松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会。以下、勉強会と略す。）を支援した。

(1) 松山駅まち会議

松山市の主催する「松山駅まち会議」に委員参画し、松山駅前広場の基本計画策定に関して助言を行うとともに、JR松山駅周辺整備課及び駅前広場の基本設計業務受託者とともに、基本計画案の検討サポートを行った。



駅まち会議の様子（松山市 HP より）

<松山駅まち会議の開催日>

2019.04.10

松山駅まち会議（作業部会）

2019.09.03

松山駅まち会議（作業部会）

2019.10.18

第2回松山駅まち会議

(2) 松山駅周辺まちづくりに関する土地利用勉強会

(1) 勉強会の開催概要

勉強会では駅前広場でのイベントを試行するなどし、将来的な駅前広場の利活用（エリアマネジメント）へ向けた知見を積み重ねている。この勉強会においてUDCMの果たした役割は、①勉強会の総合コーディネーター（議題の設定や当日の進行、とりまとめ等）、②各種先進事例の紹介、③都市デザインに関するアドバイス、④駅前広場でのイベント試行の支援、⑤駅前広場でのイベント試行時における利用者調査の5点に整理される。

なお、この勉強会の成果は、駅まち会議へと報告された。勉強会の開催日と議題は右記の通りである。

<勉強会の開催日と議題>

勉強会：松山市による開催 自主会・MTG：地元による自主開催

2019.3.19

第1回自主会 昨年度のふりかえり+今年度の方針について議論

2019.4.18

第2回自主会 今年度のテーマ・コンセプトを議論

2019.5.21

第3回自主会 活動の内容を議論

2019.6.27

第4回自主会 イベント当日の役割分担を議論

2019.7.26

イベント実施 第1回「みんなの駅前文化祭 よいまち」開催

2019.8.1

第5回自主会 イベントのふりかえり

2019.9.11

第6回自主会 イベントのふりかえり+今後の方針について議論

2019.9.30

第1回勉強会 新規メンバーとふりかえり+今後の活動内容を議論

2019.11.1

第1回MTG イベントの詳細を議論

2019.12.8

イベント実施 第2回「みんなの駅前文化祭 よいまち」開催

2019.12.17

第2回MTG イベントを中心としたふりかえり

2020.1.31

第2回勉強会 取り組みのふりかえり+駅前広場に必要ものを議論

2) 第1回「みんなの駅前文化祭 よいまち」

昨年度の勉強会では、松山駅周辺の将来イメージについて議論を重ねた。その結果、「旅も暮らしも交流も駅からはじまるNEO松山」というコンセプトが立案された。そのコンセプトの中の大きな柱のひとつに「地元が行きたくなる飽きさせない街」という基本方針が示され、「イベントや交流がさかんでいつも人が多い」という解説が付された。今年度の取り組みの大きな成果のひとつは、この「地元が行きたくなる」「イベントや交流がさかん」という状態を市民自身で生み出すことができるのか、実証実験をしたことである。この実験を通して、現在の駅前広場が抱える空間的な課題や、地元の実行体制に関する課題なども浮き彫りにされるであろうこともねらいに含まれる。

このようなねらいを参加メンバーと共有し、議論を重ね、またJR四国の多大なる協力を得て「みんなの駅前文化祭 よいまち」として開催した。7月26日に開催された第1回は、3組の大学生バンドを招聘した無料ライブと、2台のキッチンカーによる飲食物の提供を行った。会場は盛況であり、推定で250人ほどの来場者があった。

イベント当日、UDCMは会場で来場者アンケート調査および滞留者調査を行った。来場者アンケートからわかったこととして、「イベント目的で来場された方が多く、食事や買い物などの立ち寄り行動をしていること」が挙げられる。イベント企画当初は、道ゆく通行人が多く参加するイベントになるのではないかとという予想であったが、実際にはイベントを目的として来場した方が85%を占めた。また、64%の方が食事や買い物などの立ち寄り行動をとっており、イベントが周辺店舗へ経済的な効果を促していることが読み取れる。

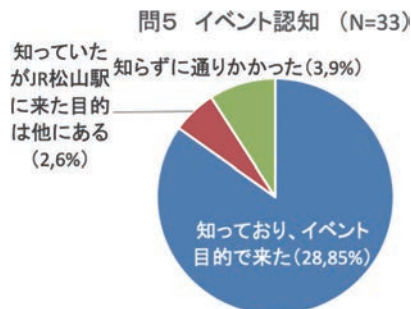
滞留者調査では、ライブステージと主な観客滞留スペースの間に植栽を挟む格好となり、空間的な広がりももう少しあるとよいことが見えてきた。(下図は最も滞留者の多かった20時の様子) このように、イベントを行う視点からは、新しい駅前広場では、ステージ空間、物販空間(キッチンカーの導入スペース等)、一体性を持った滞留空間、周辺街区とのつながり、イベント時の動線確保などをあらかじめデザインに含めておけるとよいことがわかった。



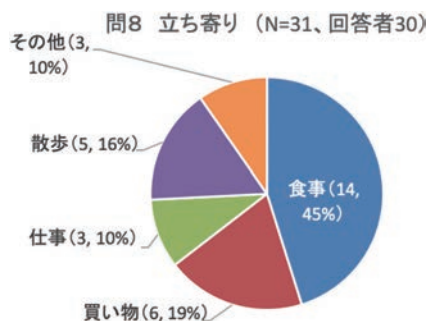
左: 図1-3-1. 第1回よいまちチラシ / 右: 図1-3-2.3. 第1回よいまち会場風景



図1-3-6. 滞留者数調査 (20時00分)



左: 図1-3-4. イベント認知 / 右: 図1-3-5. 立ち寄り行動



3) 第2回「みんなの駅前文化祭 よいまち」

第2回のよいまちは、JR四国に加え、駅前に立地する温浴施設を有するキスケ株式会社に多大な協力を得て、12月8日に開催された。今回は、松山アーバンデザインスクールのグループが企画実践をする「足湯」と、駅周辺飲食店の商品を食べ歩きができる「駅前フードコート」、さらに駅前の歴史的な映像の投影という三つのコンテンツが組み合わさった。真冬の寒さで集客が懸念されたが、推定で100人ほどの来場者があった。

来場者アンケートの結果、今回は前回よりも「知らずに

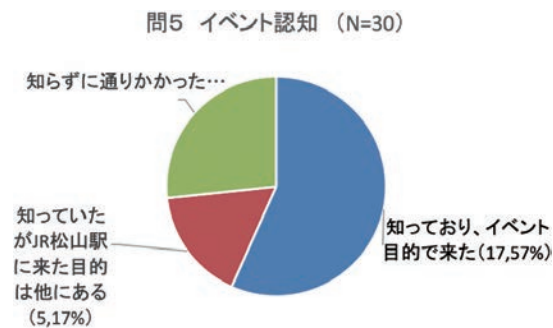
通りかかった」回答者が27%と多かった一方、満足度が93%と非常に高かった（第1回は79%）。季節柄に合った企画「足湯」であったり、アーバンデザインスクールの学生たちの一生懸命な運営、近隣店舗とのコミュニケーションなどが満足度につながったのではないかと。なお、前回と同規模の62%の方が食事や買い物などの立ち寄り行動をとっており、やはりイベントが周辺店舗へ経済的な効果を促していることが確認された。



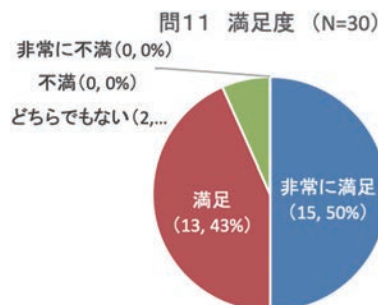
図 1-3-8. 第2回よいまちチラシ



図 1-3-7. 足湯の様子



左：図 1-3-9. イベント認知 / 右：図 1-3-10. 満足度



4) 活動を通して得られた知見

これらの活動を通して得られた知見を踏まえて、勉強会では松山市の開催する「松山駅まち会議」へ提言を行うこととした。提言の詳細の紹介は割愛するが、以下の要点を含む提言となった。

<松山駅まち会議への提言書の要点>

①活力を生むための広場

- ・イベントがしやすい空間と設備
- ・日常時は、待合等に使える空間と設備（ベンチなど）

②滞在したくなる駅と周辺店舗

- ・駅の待合スペースの充実化
- ・滞在したくなる周辺店舗

③戦略のある案内

- ・案内のターゲットや案内情報を吟味した戦略のある案内
- ・松山らしいモニュメントなど、松山の土地に合った案内

④まちとつなげる

- ・駅で完結するのではなく、大手町など隣接する街とのつながりを大事にする
- ・歩いて暮らせるまちにふさわしい駅として、周辺の街とのネットワークをつくっていく

⑤クリーンな環境

- ・駐輪場の整備、放置自転車対策
- ・清潔感を保つための対策

⑥工事中をポジティブに過ごす

- ・工事中にしかできないことを行うなどの、ポジティブに過ごせる工夫
-



1-4 | スマートシティプロジェクト

データを活用したまちづくりの方法論を確立することを目的として、スマートシティに関する取り組みを今年度よりスタートした。松山市や民間企業とコンソーシアムを結成し、国土交通省から補助を受け、全国15のモデルプロジェクトの一つとして事業を実施した。

(1) 国土交通省スマートシティモデル事業

国土交通省がスマートシティ先行モデルプロジェクトを募集することを受け、松山市とUDCMが共同主催者として、技術提供者である株式会社日立製作所、復建調査設計株式会社、地元鉄道事業者である伊予鉄道及び四国旅客鉄道、研究機関として愛媛大学防災情報研究センターを構成メンバーとしてコンソーシアムを結成し、当プロジェクトに応募した。結果、国土交通省スマートシティ先行モデルプロジェクト15地区のひとつとして選定された。

国土交通省からはモデル事業と海外展開に関する2つの事業補助がつき、事業を実施した。モデル事業としては、レーザーを活用した調査、データプラットフォームの構想検討、具体計画への展開検討を行い、最終的に来年度以降のスマートシティ実行計画案を作成した。



コンソーシアム会議の様子



データ可視化ツール（CityScope）を用いた意見交換会の様子

松山スマートシティプロジェクト実行計画

▶ <https://www.mlit.go.jp/common/001341971.pdf>

松山市におけるスマートシティ実現に向けた取り組み

▶ https://www.uit.gr.jp/gijutu/file/02/e02_r01.pdf

■ 運営体制

*法人格名省略

公民学が連携し、民間企業の技術・情報等を活用し、取組を推進する。

民の主な担当

先進技術の導入

City Probe

先進技術の導入

City Data-Spa

City Sim

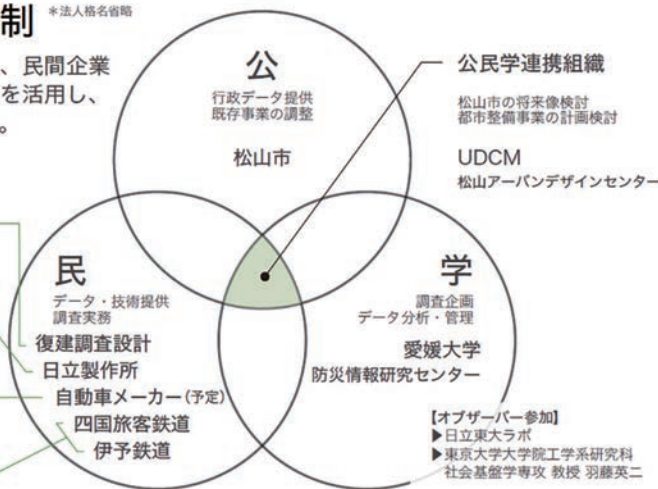
CityScope

次世代都市

サービスの導入

City Ride

データ提供

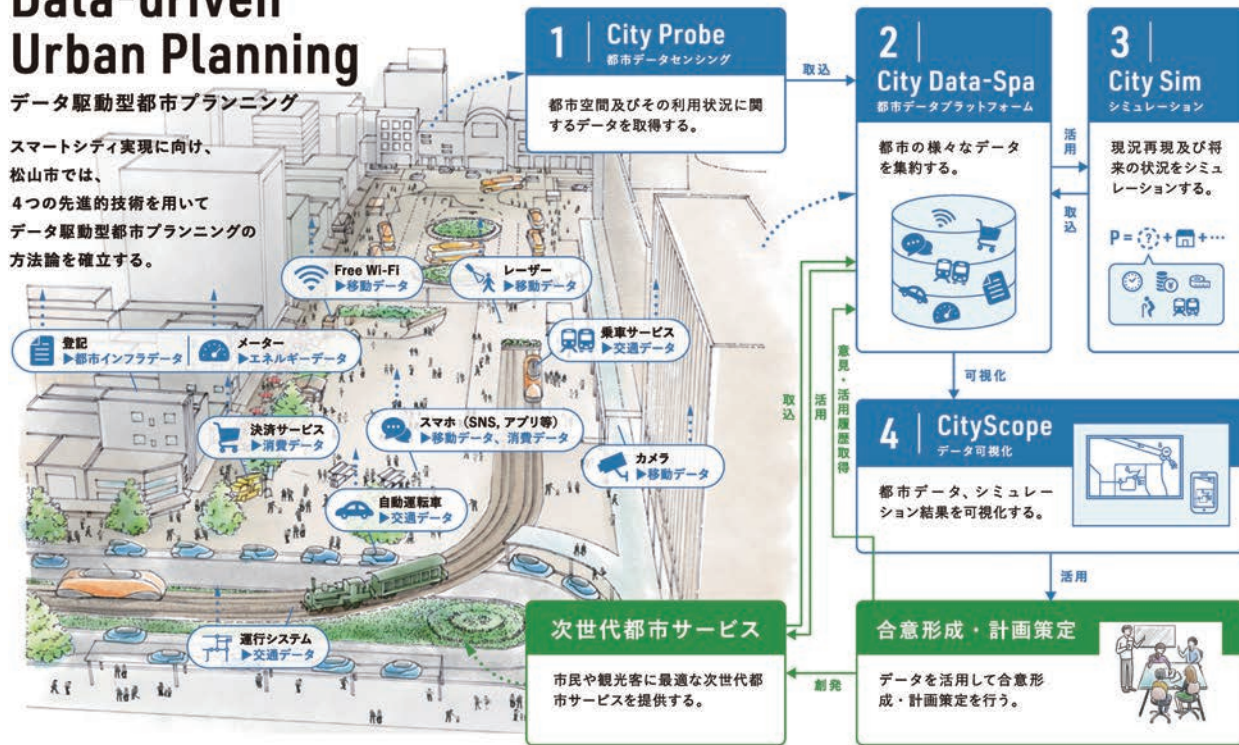


コンソーシアム構成メンバー

Data-driven Urban Planning

データ駆動型都市プランニング

スマートシティ実現に向け、松山市では、4つの先進的技術を用いてデータ駆動型都市プランニングの方法論を確立する。



松山におけるスマートシティの取り組みコンセプト

(2) 国土交通省スマートシティの海外展開に関する事業

前述のモデル事業に関連し、国土交通省のスマートシティモデル事業の海外展開に関する補助予算を確保したため、松山におけるスマートシティの取り組みを紹介する映像作品を制作した。映像作品には、松山市が行うスマートシティプロジェクトのコンセプトや開催した意見交換会の様子等を収録した。



松山のスマートシティプロモーションビデオ



1-5 | その他

その他、松山市や民間企業等の取り組みに関して支援を行う。今年度は、道後温泉地区及びロープウェー通りの景観デザインに関するサポートを行った。

(1) 道後地区のデザイン検討

道後温泉活性化懇談会に、羽藤センター長が懇談会会長として、常勤スタッフがオブザーバーとして参画し、下記の事業に対する支援を行った。

1) 道後温泉本館素屋根および仮囲いのデザイン検討

2019年1月より道後温泉本館の耐震改修工事がスタートした。松山市は、工事期間ならではの道後温泉の魅力を発信するため、「道後リボンプロジェクト」と題し、火の鳥をモチーフとしたプロモーションが検討され、松山市、地元関係者、有識者とともに懇談会で協議した。特に工事中の本館を覆うための素屋根および仮囲いのデザイン検討等に関してアドバイスをを行った。

2) サインのリニューアル検討

道後温泉地区には、道導マップ等のサインが設置されている。これらの一部を松山市が改修する必要があったことから、松山市や委託業者とともに、具体的なサインデザイン及び設置位置の検討を支援した。



サイン設置現場検討 1

3) 道後温泉地区の「火の鳥マンホール」のデザイン検討

松山市下水道処理課の普及啓発事業の一貫で、道後温泉地区に火の鳥マンホール設置を松山市が企画した。事業担当課とUDCMにて、現場確認等も含めデザイン案の検討を行なった。出来上がったマンホールは次年度設置予定である。



サイン設置現場検討 2



火の鳥マンホール

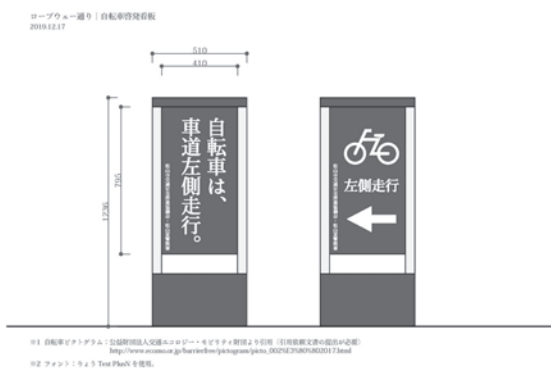


マンホールの色現地検討

(2) ロープウェー通り自転車誘導サイン検討

ロープウェー通りは、松山市中心部と文教地区である愛媛大学方面を結ぶ動線として、かねてより自転車交通が多かった場所である。リニューアル後、車道内に自転車動線空間が配分されているが、歩道空間との段差がないこと、また坂道であるなどの環境要因が重なり、歩道空間を自転車が比較的速い速度で通行することが危険であると地元から声があがっていた。

そこで、松山市都市交通計画課は、注意喚起のサインを設置することを検討し、UDCMはその設置位置およびデザイン検討に関して支援した。最終的に、ロープウェー通りの愛媛大学側入口の横断歩道付近に2箇所、車道内左側通行を促す注意喚起サインが設置された。



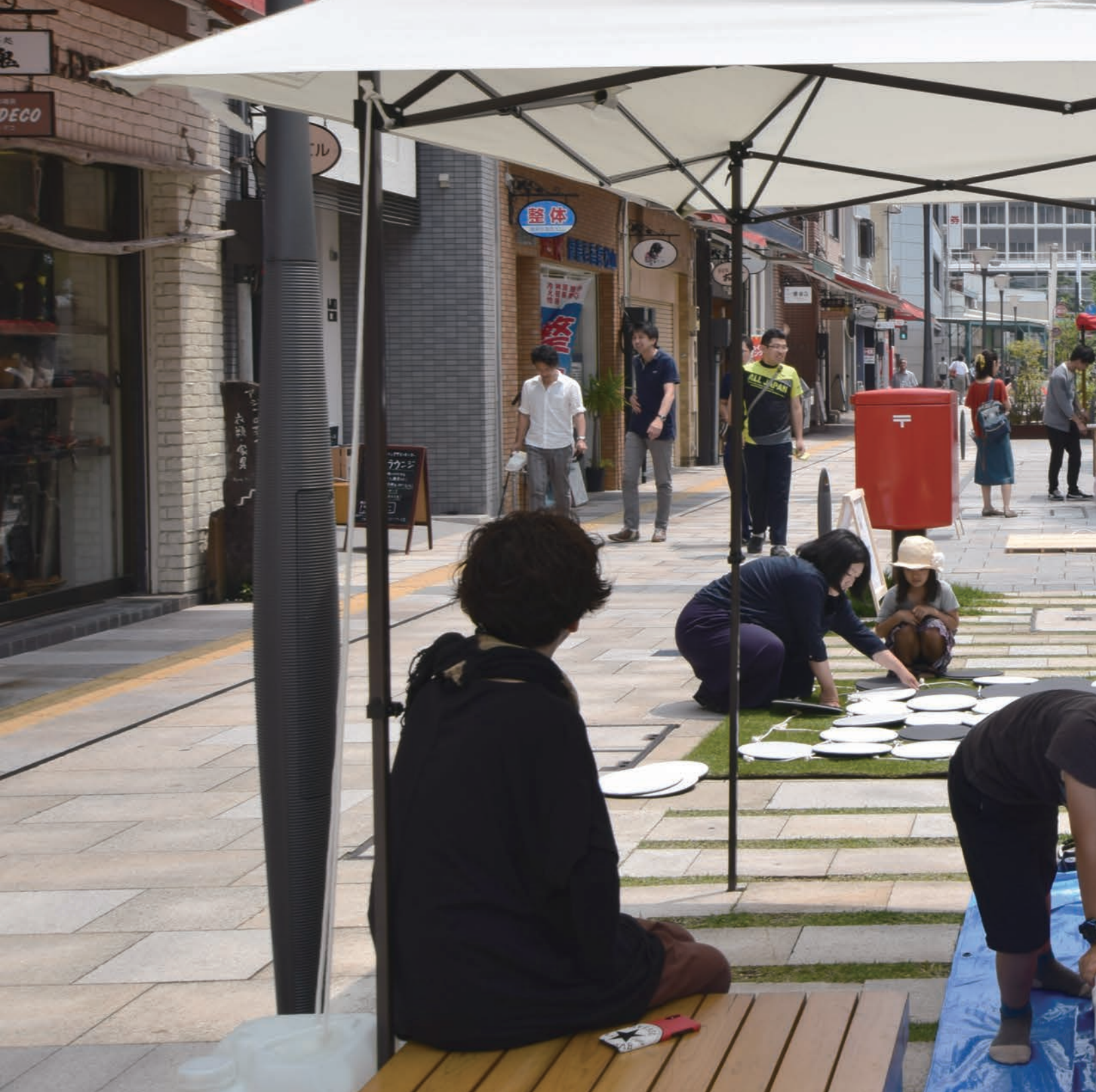
自転車誘導サインの検討図面（UDCM 作成）



自転車誘導サイン

(3) シェアサイクルの色検討

松山市の行うシェアサイクル実装の社会実験において、自転車両やポートの配色についてアドバイスを行った。



02

プログラムデザイン

PROGRAM DESIGN



2-1. 松山市中心市街地賑わい再生社会実験

2-2. アーバンデザインスクール

2-3. メディア制作



2-1 | 松山市中心市街地賑わい再生社会実験

UDCM では 2016 年度から松山市中心市街地賑わい再生社会実験業務を松山市都市整備部都市デザイン課から受託し、2014 年 11 月に湊町三丁目に整備された「みんなのひろば」と多目的スペース「もぶるテラス」の運営に取り組んできました。昨年度途中には、松山市から社会実験の活動拠点移転とそれに伴うひろばとテラスの閉鎖が発表され、2017 年 9 月に通りのリニューアルが行われた花園町に社会実験の活動拠点を移した。花園町は空間改変計画検討が進む松山市駅前に近接しており、ハード整備後の空間活用にも注目が集まっている地区でもある。花園町通り（公共空間）での取り組みが本格化したこの 1 年の活動を振り返る。

(1) 本年度の活動コンセプト

本年度の活動において目指すべき「賑わい」を次の3つと定義し、自主事業を行った。また同様の賑わいを生み出す他主体事業においても参画・連携し、花園町通りを中心とした新しい賑わいづくりにも取り組んだ。

目標① 人出や商業行為の多さ

目標② 屋外での豊かな活動（アクティビティ）の創出

目標③ 地域資源・魅力の再発見

(2) もぶるラウンジ

1) 利用者推移

2019年度のラウンジ利用者は、延べ7,587人（前年3月末：延べ約1,651人）であった。平日は30～50代の利用が多く、昼に飲食をしている様子や休憩に立ち寄り雑誌を読んだり、スマホを操作したり、思い思いの時間を過ごしている利用者をよく見かける。休日は平日に比べて幼児、小学生の利用が多く、通り周辺やラウンジでのイベント開催日は特に、家族連れの利用が目立つ。

2) 運営・企画

もぶるラウンジは、まちなかの交流施設（フリースペース）という位置づけに加え、まちづくりの情報発信の場所でもある。市内各所でのまちづくりに関する冊子やチラシ等の掲示に加え、そういった情報を率先して習得しに来たわけではない人を対象に、まちへの興味・関心を促す情報掲示や展示企画を開催した。また、4月時点で開館して2か月程であり、もぶるラウンジの存在等を知ってもらい、来館してもらいことを目的とした企画も実施した。

① エリアごとの掲示板

ラウンジに入ってすぐの通路脇は、掲示コーナーになっている。「もぶるラウンジ」に関する情報に加え、現在まちづくりの事業や計画が進んでいる「市駅前・花園町」「JR松山駅」「道後」の3エリアに特化したスペースと、UDCMとオフィスを共にする「松山ブンカ・ラボ」のスペース、その他のエリアの情報を扱う「まちなか」の6スペースに情報を整理して発信した。

② まちづくりに関する図書

掲示板の下部は棚になっており、ラウンジの蔵書を並べる本棚として活用している。蔵書は、ラウンジ内で閲覧することはもちろん、利用者登録すれば同時に2冊まで貸出を受けることも可能である。

松山や愛媛の歴史本や暮らし、歴史、住宅、建築、土木、都市計画等、まちづくりに関する図書が約500冊ある。本年度はまちをいろんな視点から楽しめる絵本や専門書等を追加購入した。子連れの利用者が「変わった絵本があるね」「面白そうだね」と絵本を手取る様子も見受けられた。



もぶるラウンジの内観



③休日企画「レゴ® プール」

6月のストリートイベント「道de遊ぼう」で人気であったレゴ® プールを、ラウンジ休日企画として9月と10月の土日祝日限定で実施。ラウンジとUDCMの周知、親子連れ世代の来街を増やすこと目指した企画である。

参加者は、家庭用プールに入った大量のレゴ® ブロックを思い思いに組み立て、自分だけのオリジナル作品を組み立てていた。

④企画展「子規と花園町」

花園町通りは、松山を代表する俳人正岡子規とつながりがある。西通りに子規の生誕地跡があり、平成29年度のリニューアル工事で整備された子規の庭には子規が俳句で詠んだ植栽や、好きだった植栽を中心に植えられている。この子規の庭の植栽を中心に紹介する企画展を9月19日（子規の命日）から10月末日までラウンジ企画展示「子規・俳句企画」の第1弾として実施。いつもとちがう視点でまちを見るきっかけづくりを目的とした。

他のプログラム参加者や視察等で訪れた県外の方からも「正岡子規って松山出身だったんですね」「ここが生誕地なんですか」「あとで歩いて探してみます」と、たくさん感想をいただいた。



レゴ® プール

⑤活動写真スライドショー

ラウンジ利用者に、本社会実験として取り組んでいる活動や、学生企画等を知ってもらうきっかけづくりとして、活動写真のスライドショーを実施した。6月までの活動、12月までの活動写真をそれぞれ翌月からラウンジ内の壁にて上映した。なお、このスライドショーの写真選びと編集は全て学生スタッフが主体となって取り組んだ。



展示「子規と花園町」

(3) 花園町通りを活用した自主事業

先述の目標①②を目指し、花園町通りで毎回異なるテーマで「ストリートイベント」を計4回、また「カフェテラスの社会実験」を約4ヶ月間実施した。また③のために学生スタッフが主体となり通り周辺の歴史等をまとめたMAP作りを行った。

1) ストリートイベント「道 de シリーズ」

ストリートイベント第1弾のテーマは「遊び」。通りで寝転んでゴロゴロしたり、巨大オセロを通りに並べたり、巨大しゃぼん玉を飛ばしたりするプログラムを企画し、6月22日(土)に実施。沿道店舗によるオープンカフェやボランティアによるストリートライブも同時開催した。

想定していた以上の方にご来場いただき、巨大しゃぼん玉は用意していた液が開始2時間ほどで終了。巨大オセロは、気付けば石(白黒のコマ)をたくさん積み上げるゲームに変化しており、参加者が思い思いに遊んでいる様子が通りの中に生まれた。

第2弾のテーマは「学び」。通りにまつわる俳句や植物を七夕と共に楽しく学ぶプログラムを昼と夜に分け、7月6日(土)に開催。

昼は、俳人正岡子規の夏の句の解説をスタッフから聞

き、句に登場する植物を探して通りを歩き回る子規植物散歩や、七夕の願い事を俳句で書く俳句ワークショップ、家庭にあるものでシャーベットを作るワークショップ等を実施。また、市立中央図書館に協力いただき、移動図書館「つばき号」に俳句や七夕、天体に関する本を載せて、通りに来ていただいた。

夜は、沿道店舗の協力でオープンカフェを、愛媛大学天文学研究会の協力で天体観望会と星空案内を実施。通りがかった多くの方が参加してくださり、天文研の学生からは「天体に興味をもっといただき、たくさん質問を受けた」等の感想をもらった。

第3弾でテーマは「音楽」。ボランティアで歌唱や楽器演奏パフォーマンスを行ってくれる方を事前に募集し、10月26日(土)に開催。音を伴うイベントのため、事前に開催内容や日時について沿道関係者へ説明に周り、了承を得た。

パフォーマンスにご協力いただいたのは、大学生アカペラ2チーム、有志によるアサラトグループ、大学生のジャズバンド、有志によるストリートブルースバンドの4組。

パフォーマンス中は、通りすがりの人がふらっと1~2曲聞いて立ち去る姿が多く見られた。出演者の方と観客



道 de 遊ぼう



道 de 音を楽しもう



道 de 学ぼう



道 de オリンピック

とのやりとりの他、出演者同士のコラボもあり、新しいつながりも育むことができた。

第4弾のテーマは「運動・スポーツ」。2020年オリンピックイヤーにあわせて、年明け1月25日(土)に開催。オリンピックとパラリンピック競技に因んだ種目を学生スタッフが中心となって企画。午前は開会式と記録を競う3種目を、午後は、遊び感覚で参加できる5種目を開催。小さな子どもから高齢者まで参加できるようにルールを工夫し、通りの至るところで、参加者が楽しそうに運動している空間づくりを目指した。

その場に居合わせた初対面の子ども同士と一緒にプレイするなど、参加者同士の交流も見られ、午前と午後を通して、開催中は常に通りに人が溜まり、子どもたちのしゃべり声が響いていた。

2) 花園テラス

通りでの日常的な滞留行動の促進を目的として、東通りの芝生スペースに可動式の椅子・テーブルセットの配置と、協力店舗による飲食物のテイクアウト企画「花園テラス」と称して約4ヶ月間(10月19日～1月9日、1月17日～2月16日)実施した。



花園テラス

当初、本企画を説明に周った際、賛同いただける店舗は1店舗だけであったが、毎日イス・テーブルを出し入れしている際に「通りにこういう風景があるのっていいですね」と声をかけてくださったり、「うちの店前でもやってみよう」と興味を示してくださったり、取り組み始めてから徐々に好意的な反応が返ってきた。そういった反応が地元協議会の代表者の耳にも届き、来年度から地元が主体となって、「花園テラス」のようなオープンカフェ事業を行う方向に話が進み、地元代表メンバーと意見交換等を行った。

3) 花園今昔物語マップ

通りの魅力や資源を再発見することを目的に、学生スタッフが中心となり文献調査やヒアリングを実施し、成果物としてのMAPづくりに取り組んだ。また、ヒアリング等を通じて、地域の方々とコミュニケーションをとる機会も得た。



MAPづくりのための意見交換の様子

(4) 連携事業

通りで他主体が開催するイベントと連携した企画を毎月実施した。また、普段ラウンジを占有してプログラム開催されている方と連携した取り組みや、前の活動拠点で実施した連携企画を本年度も引き続き実施した。

1) お城下マルシェ花園との連携

通りで毎月第3日曜に開催されている「お城下マルシェ花園」にあわせて、イベントテーマに関連したワークショップや通りの賑わいを盛り上げる企画等、学生スタッフを中心となって毎月取り組んだ(下図、本年度のマルシェ連携企画一覧)。

4月は学生スタッフが友人に声をかけてバンドを組み、通りでジャズライブを実施。マルシェ実行員会からカホン作りとコラボして演奏会をしてほしいと依頼を受け、5月も通りで演奏を行った。いずれも好評であり、また演奏企画をやってほしいと要望もいただいた。

12月はテーマのクリスマスに関連して、子供向けのクリスマスツリー作りを1回生の学生スタッフが企画。先輩のフォローを受けながら取り組み、企画後の活動では以前より主体的に考えたり、取り組んだりする姿勢がみられるようになった。

2019.04.21	JAZZLIVE
2019.05.19	みんなで演奏会
2019.06.16	鉄道模型ミニ走行会
2019.07.20	天体観望会
2019.09.15	レゴ(R)プール
2019.10.20	おばけ探しスタンプラリー
2019.11.17	ちぎろう!はろう!えがこう!
2019.12.15	せかいに1つだけのクリスマスツリー
2020.01.19	こたつ
2020.02.16	こたつ・クロヌリハイク

お城下マルシェ連携企画一覧

2) ラウンジ占有者との連携

定期的にラウンジでプログラムを開催しているかがくあそび工房に協力いただき、7月のストリートイベントで科学ワークショップを開催いただいた。また、不定期にラウンジで活動されているNPO Communication Networkと共同で、10月のマルシェ開催日にあわせて通りを回遊するハロウィンスタンプラリーを、お城下マルシェ主催者協力のもと実施した。

3) まつやま文具マルシェ

昨年度、前の活動拠点近隣の商店街店舗等と共同で開催した文具をテーマにした商店街回遊イベントを、本年度も共同で開催。みんなのひろばがないため、本年度は空き店舗を借りて特設広場とした。UDCMでは昨年大好評であった「らくがきハウス」等、通りがかりの方もフリーに参加できるプログラムの運営と、参加者がゆっくり過ごせる場所づくりを主に担当した。



ハロウィンスタンプラリー



クリスマスツリー作りWS

(5) 学生スタッフ企画

UDCMでは学生スタッフをまちづくりの担い手と捉え、ラウンジ運営や企画実施等を通じて担い手育成に取り組んでいる。ストリートイベントやマルシェにあわせた企画の他に、ラウンジでの企画展示や単独でのプログラム開催に挑戦する学生スタッフも居る。

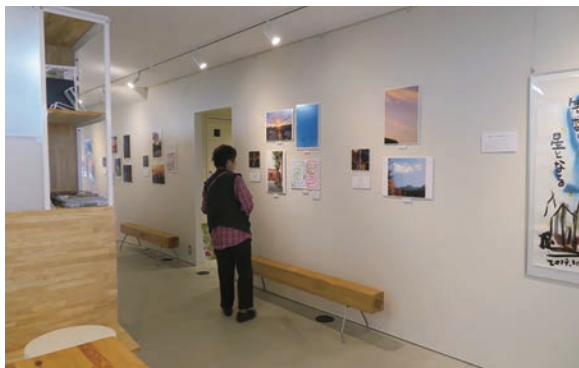
1) メデヨムハイク

ラウンジ企画展示「子規・俳句企画」の第2弾（第1弾は「子規と花園町」）として、より多くの人に俳句に親んでもらうことを目的に実施。題句を鑑賞して表現した作品（絵や写真など）を一般に募集し、ラウンジで展示。作品の表現方法はあえて限定せず、様々に表現された作品が集まることで、題句を読む人による印象の違いを感じられる展示を目指した。

また、この企画は、松山市立子規記念博物館ロビーでも展示をおこなった。子規博での展示については、企画者である学生スタッフ自らが子規博側への企画説明や交渉等を行い実現した。

2) おしゃフェス

「‘おしゃれ’をきっかけに人と人との繋がりを生み出す」



メデヨムハイク

をテーマに、学生スタッフ発案の服の交換会を通りとラウンジを使用して実施。参加者が服等のアイテムを持ち寄り、他の人が提供したアイテムを持って帰る仕組みである。1アイテムにつき1タグを付け、あげる人はアイテムへの想いを、もらう人はお礼のメッセージを残し、交換のかたちを可視化した。

当日は主に学生スタッフの友人や通りがかりの方々が来場。学生スタッフが積極的に通りで声掛けを行い、近所の飲食店の店員さんたちも遊びに来てくださった。通りがかりの方々の目に留まるよう、通りでは移動する建築の屋台を活用してアイテムを展示した。



おしゃフェスの企画運営を担当した学生スタッフたち

(6) まとめ

1) 取り組みの成果

本年度の成果は「通りでのプログラム開催等のノウハウ整理」、「カフェテラスの事業化に向けた議論」、「担い手育成」の3つである。

前述のプログラム企画等を通じて、通りを利活用する場合に必要な各種手続きの把握や地域との関係作りを行った。また通りと企画の相性や必要なアイテム類等の設えについて試行し、利活用のノウハウを成果として整理した。実践したプログラムの1つである「花園テラス」が、地元協議会による事業化に向けて議論が前向きに始まったことも成果である。

これらの取り組みを語る上で学生スタッフの存在は外せない。時には企画のお手伝いとして運営を支え、時には企画の発案者として準備から当日の運営まで主体的に取り組み、事業の大きな戦力となっている。同時に、学生たち自身が多くの経験を積み、一人一人がまちの魅力や課題に考えを巡らせ、行動に移す主体性や公共性を学びつつある。また、一緒に取り組む我々や地域の人たちにとっても、貴重な刺激になっている。

2) 今後の課題

様々な効果が認められつつある一方で、課題もある。取り組みを通じて、地域との関係作りは進んでいるが、社会実験はあくまで期間限定での活動だ。継続的に通りでの利活用を行う、もしくは利活用をマネジメントしていく組織や体制が必要である。現在の地元協議会がその一端を担いつつあるが、「プレイヤー」や「通りで開催されているイベント等と沿道との関係性作り」が不足している。効果的に利活用を進めるためには、この課題を地元が積極的に解決する必要がある。

3) 終わりに

本事業は、これまでも様々な人の力をお借りしながら取り組んできたが、今年度末で、まちなかの賑わい再生としての社会実験は幕を閉じる。UDCMではこれまで培ってきたものや築いてきた関係性を基礎として、今後も通り等、公共空間の利活用について取り組みを続けていきたいと考えている。



2-2 | アーバンデザインスクール

設立時から担い手育成とまちの魅力創出を目的として、まちづくりの実践型学習プログラムを提供してきている。今年度は、昨年度と同様に基礎編と実践編に分け、高校生も新たな対象に含め、スクール事業を実施した。

取り組み概要

開催期間：令和2年5月～令和2年12月

開催場所：サイボウズ松山

運営：アーバンデザインスクール運営委員会

参加者：基礎編32名、実践編28名

松山アーバンデザインスクールとは、将来のまちづくりの担い手育成及び、まちなかのファンを増やすことを目的とした「まちづくりを実践的に学ぶ市民参加型の学習プログラム」である。

松山アーバンデザインセンターが母体となり、松山市内の4大学（愛媛大学・松山大学・聖カタリナ大学・松山東雲女子大学）の教員が運営委員会を組織して活動を遂行しており、まちなかのスクールアドバイザーとして、まちづくりを実践されている方、地域の商店主の方、NPO、まちづくり組織など、各分野で活躍している方からも支援を受けている。

スクール生はプロジェクトチームにわかれ、まち歩きやレクチャー、ワークショップを通じてまちの課題や魅力を発見し、地域住民との意見交換、協働を経て、その中で自ら成長していくと共に、まちの歴史や文化に根ざした松山市ならではの魅力的なまちづくり活動に結実させていく。

1期目では25名が7つのプロジェクトを、2期目では29名が7つのプロジェクトを、3期目では28名が6つのプロジェクトを実践した。4期目からは、まちづくりのレクチャーを中心とした「基礎編」、チームにわかれプロジェクトに取り組む「実践編」という二段階の構成で進められ、基礎編に56名が参加し、実践編は28名が6つのプロジェクトを実践した。5期では、基礎編に32名が参加し、実践編は28名が5つのプロジェクトを実践した。



アーバンデザインスクールの様子



広がれ！伊予絣の魅力！（チームかすりん）

愛媛県は、全国に誇れる観光資源を有しており、多くの魅力がある。今でも変わらず伝統を受け継いでいる製品に着目してみると、伝統工芸品として有名である「砥部焼」が挙げられ、身近に使用している人も多い。伝統を受け継いでいる商品を今でも県民が使用していることに感銘を覚えた。一方で、衰退が顕著な製品もある。その一つが伊予絣である。チームを結成した当初は道後温泉周辺をフィールドとする活動を実施しようとしたが、メンバー内での話し合いを繰り返す中で、愛媛を代表する製品「伊予絣」を中心に取り扱い、道後で販売し、「伊予絣」の魅力を多くの人たちに知ってもらうことを目指すことになった。

今回の企画で製作した商品は計4日間、3つのイベントで販売した。第1回目の販売は11月17日に松山市城山公園で開催された「すごいもの博2019えひめ・まつやま産業まつり」で実施した。このイベントには、毎年非常に多くの方が来場されていた。第2回目の販売は11月23日・24日に松山大学で開催された「熟田津祭」で2日にわたって実施した。このイベントは比較的若い世代の方が来場されていた。第3回目の販売は、12月15日に松山市総合コミュニティセンターで開催された「まつやま温故知新フェスタ」で実施した。このイベントは、市制施行130周年記念式典にあわせて開催されたこともあり、地域活性活動に理解のある議員の方など、中高年の方が多く来場されていた。

今回製作した商品は計4日間の販売を通して完売した。主に40～80代のお客さんに購入していただき、家族へのプレゼントとして購入してくれた人もいた。また、今回購入者とイベント来場者の計61名に伊予絣の知名度、イメージ、ほしい物についてアンケートを行った。その結果、

全体の78%の方が伊予絣を知っており、中でも30代以上の方は80%以上の認知度があることが分かった。メインターゲットである10代の知名度は57%、20代の知名度は38%であった。また、彼らは柄がきれいでおしゃれというイメージを持ち、アクセサリーや衣類などにニーズがあることが分かった。全体で見ると、イメージではおしゃれ、質素、伝統的等、ほしい物はスマホカバーや財布等の雑貨類、ネクタイやサムエ等の衣類といった意見があった。活動を通して、すこし屋さんとのコラボにより時代に合った絣の使い方を提案することができたと考えている。白方興業さん、すこし屋さん共に今回の協力依頼を快く引き受けてくださったおかげでお客さんに素敵な商品を届けることができた。

若者に購入してもらえなかったことが今回の課題として挙げられる。販売した商品はすべて職人さんによる手作りであり、その分高価であったため購入していただけなかったのではないかと考えている。しかし、作成していたSNSアカウントをもっと有効に活用し若者にもPRできたのではないかと考えられる面もある。今後アンケート結果を白方興業さんに提出する予定なのでそれがこれからの絣産業のさらなる振興に繋がればと考えている。



第1回販売時の様子



完成した商品

足湯会談～休憩スペースの創出と会話のきっかけ作り～ (We love 松山班)

JR松山駅は愛媛県の玄関口であり、通学や通勤で利用する人が多い。その一方で、JR松山駅は利用する人が多いものの、賑わいがなく静かだというイメージを持っている。このようなイメージを持つJR松山駅の実態を明らかにするため、駅の利用者の実態調査を行った。この実態調査を通じて、待合室では携帯を触っている人が多く、会話を楽しめるような空間ではないことが明らかになった。また、駅内にある待合室以外に外に設置されているベンチの数が少ないことも分かった。外での休憩スペースがないため、松山駅自体がただの通過点になってしまっているのではないかと考えた。「会話を楽しむことができる空間がない」「ベンチの数が少ない」「外に休憩スペースがない」という実態から、待ち時間の活用、休憩スペースの創出、松山の良さを知ってもらえる活動を行っていくことに決定した。話し合いを進める中で、愛媛県を代表する観光資源である温泉を利用した足湯の案が挙がった。足湯に浸かりながら休憩もでき、交流のきっかけづくりにもなると考え、足湯を使ったイベントを行うことにした。

当日は13:30頃から準備に取り掛かった。まずは会場の設営をした。次にキスケ株式会社さまにお湯を持ってきていただき、農業用タンクからポリバケツへ移し変え、そのお湯をフットバスに入れた。そして、フットバスをベンチへ設置し、私たちで作った木箱をフットバスにかぶせ、雰囲気づくりに取り組んだ。ベンチには座布団を敷き、寒さ対策に努めた。衛生面のことを考え、温泉水は一回使用するごとに排水し、フットバスをアルコールで拭き上げたのち、新しいお湯に入れ替えることにした。この使用済みのお湯は雑排水であるため雨水を流すための排

水溝に流すことができず、排水の処理については解決に時間がかかった。使用済みのフットバスはアルコール消毒をした。お湯の供給、排水、消毒のことを考え、効率よく足湯を提供するために、フットバスは全部で6台用意した。6台のうち、4台は常設、2台は予備とした。

イベントには男性24名、女性24名、計48名の方に来ていただいた。親子で来てくださる方が多くみられ、利用者同士の交流も見られた。企画の成果は、足湯をすることで落ち着いた空間をつくることができ、足湯利用者同士の交流も見ることができたことである。また、活動を通して松山駅周辺地域の持つポテンシャルにも気づくことができた。私たちがイベントを開催した「広場」は閉鎖的に作られてはいるものの、それがかえって落ち着いた雰囲気づくりに役立っていたように感じる。そこで、机やパラソルを設置して屋外カフェのようにすれば、周辺のお店で買ったものを食べることができ、周辺のお店とのつながりを作ることができるのではないかと考える。また、パラソルなどを置くと広場の場所が分かりやすくなり、広場が多くの人に利用してもらえる場所になるのではないかと思う。

今回の活動の反省点は、チラシの制作が遅れてしまい、十分な宣伝ができなかったことである。またアンケートでも意見を頂いたように、看板を大きくしたり、ご飯を食べながら足湯に入れるようにしたりと細かな工夫をすればさらに良いイベントになったように思う。



設置が完了した足湯



イベント当日の様子

GET! でまちキャン (チーム L 字)

松山市の2大商店街である銀天街と大街道の2つを結ぶアーケード周辺をL字地区という。私たちは「L字地区を活性化させたい」という思いを持って、集まったグループである。まず始めに、L字地区の現状を把握するためにチームメンバーで、L字地区の散策を行った。その中で、L字地区には空き店舗が多いことに気がついた。商店街の中、そして商店街から外れるとさらに空き店舗が目立ち、寂しい印象を受けた。L字地区は、人がたくさん来るのにもったいないと感じ、また、この使われていない空きスペースをうまく利用することが出来れば、L字地区をもっと盛り上げることができるのではないかと考えた。ここから、空きスペースを利用した空間の演出をしたいという私達のグループのイベント企画の根本が生まれた。

企画の目的は、2つある。1つ目は、遊べる、くつろぎスペースを演出することで、GET!に長く滞在してもらい、GET!や周辺店舗への関心を促し、L字地区の賑わい・交流の場に繋げることである。2つ目は、今後のL字地区活性化のヒントを模索することである。そのために、イベントの来場者に対してアンケートを実施し、L字地区によく来る人がどのような空間を求めているのかを調査した。使用する空き店舗は、L字地区の中心でもあるGET!に定め、使用許可を得るために、イベントの企画書を作成してGET!の顧問兼館長である西野さまとの話し合いを行った。しかし、我々が作成した企画書には具体性や実現困難な箇所も多く、ご指摘いただいた内容を含め再度企画書を練り直し、二回の話し合いのうえ、無事に空き店舗の使用許可を頂く事が出来た。イベント会場が決まり、次に考えたのは空間演出についてである。街中でキャンプという非日常空間を演出するためには、空間に緑が必要ではないかと考え、イベント会場に木を立てら

れないかと考えた。そのためには木の演出・設置をして下さる方の協力が必要で、造園業者の小野豊さまにご協力を依頼した。今回のイベントは、一つの空間で様々な方に楽しんでいただくために、多くの企画を実施した。そのため多くの方にご協力いただき、イベントを行う事が出来た。

2019年10月26日(土)と27日(日)の2日間、11時から17時までの時間帯でイベントを開催した。場所は松山銀天街GET!の3階エスカレーター横の空きスペースを活用。延べ129人の方に参加していただいた。

当初の目的である空きスペースの活用、話し合いの中で生まれた緑の空間づくりという2つの点から私たちはキャンプという形で様々なアクティビティを取り入れた空間づくりを行った。その結果、集客目標の一日20組を達成することができ、計129人の方が参加した。

このイベントを通して、L字地区にみんなで集まったり、くつろげたりできるような空間が市民の方々に必要とされていることが分かった。今後は、場所やコストの面も検討しながら、実現することのできる範囲で空間づくりを行い、市民の方々がより住みやすいまちづくりを行っていくことが大切であると感じた。



空間演出の様子



プロジェクションマッピングで楽しむ子供

ファッション小雑誌『MI-TTSU』（三津浜チーム）

本企画は、三津浜の隠れた魅力を、若者の興味のある「ファッション」を切り口に小雑誌『MI-TTSU』の形で提案するというものである。「もし大学生・高校生が三津浜で全身コーデをしてみたら」をコンセプトに、学生（チームの高校生、大学生4人+愛媛大学生2人）が自らモデルとなって三津浜の店舗で扱われている商品だけで全身コーディネートをする。そして、三津浜の雰囲気ある場所で撮影し、若者から見た三津浜の3つの魅力「衣・食・住」を紹介する。本雑誌を通して、三津浜を舞台に若者のノスタルジックかつスタイリッシュなライフスタイル「三津浜スタイル」を提案、発信することを目的としている。

小雑誌を作成する上で特にこだわった点は2つある。1つは『MI-TTSU』という小雑誌名、もう1つは小雑誌の雰囲気だ。『MI-TTSU』という名前は、三津浜の3つの魅力「衣服」「美味しい食べ物」「素敵な場所」を同世代に発信したいという思いを込め決定した。また、企画の目的として「学生目線の三津浜の楽しみ方を提案する」と掲げていたので、それが伝わるよう表紙はチームの高校生・大学生メンバー4人の写真を使用することにした。2つ目の小雑誌の雰囲気については、チームと担当の先生と話し合いを重ね、三津浜の大人な雰囲気が伝わるものにしようと思った。そのために、表紙は夜の三津浜商店街で撮ったものを使用したりコーディネート紹介の各自の写真は笑顔のものだけでなくクールにきめた表情のものも選んだり工夫した。

『MI-TTSU』を片手に、この写真はこの場所だと楽しみながら歩いてもらえるよう掲載順にはこだわった。また、コーディネート紹介の途中でチーム4人の対談を挟んだ。この対談では、三津浜でコーディネートをして初めての感想や活動をする際にお世話になった方の名前を挙げ、

三津浜に住む人の魅力が伝わるように配慮した。小雑誌の後半には、三津浜商店街付近の服・雑貨店の紹介ページを作った。事前の調査で、三津浜には様々な団体が作成したマップがあることは知っていたが、店舗の営業時間やSNSなどが詳細に掲載されているものはなかった。フィールドワークの際も、「目的の店が開いてなかった」「せっかく来たのに臨時休業だった。残念」という声を耳にすることがあったので、たくさんの店の情報が1度に見ることのできる見開きのページを作った。そして、最後にマップを付けて撮影した場所、掲載している店舗の場所がわかるようにした。

当初三津浜地区について知らないメンバーもいたので、フィールドワークや住民、店舗の方とお話をして三津浜の雰囲気を自分たち自身が理解することから活動を始めた。そのことにより、企画の内容や目的を決定する際、三津浜のまちづくりをより主体的に考えることができた。

また、三津浜クリエイターズミーティングに参加し、三津浜に住む方々のまちづくりへの考え方や企画への意見を頂くことにより、チームのしたいことと三津浜の住民の方々の想いとギャップを埋め、自分たち本位のまちづくりになることを極力避けることができたように感じる。さらに、現地調査やお店の方へのインタビューを4か月以上かけて実施し、地域の方々のご意見を聞いた上で企画内容を考察した。その結果、三津浜の状況をより理解した上で企画を進めることにつながったと考える。

その他にも、取材や撮影にかかるまでの期間でお店の方のバックグラウンドや営業へのこだわりなどを伺うことにより、三津浜に住む人々の温かさを私たち自身も改めて感じる事が出来た。



小雑誌に掲載の写真



Outdoor Movie Night (UDCM 松山班)

城山公園は、松山市中心部に位置し、松山市駅、市役所、県庁、大街道など主要施設へのアクセスが容易であると言う好立地に加え、大規模なイベントの開催も可能な敷地面積がある。また、周辺に松山城、県美術館、坂の上の雲ミュージアムなどの観光資源があり、観光客の誘致も可能となっている。そこで私たちは、「1. 人が集まる城山公園にする新たな利用方法を提案すること」、「2. 街の防災意識を高めること」の2つのポイントを叶えるイベントを企画することにした。城山公園は、広大な敷地に避難したり、シェルターを建てたりできるなど、防災の面でも重要な拠点であると考えられる。その意識を私たちの企画を通して持ってもらいたい。そのような思いから人が集まるイベントとして「屋外映画館」を企画し、そこで防災の意識を高めるきっかけづくりとなる要素を盛り込むことにした。また、夜の城山公園の懸念点を解決するため、あえて夜のイベントを開催することを決定した。

2019年12月8日(日) 17:30-19:30、城山公園やすらぎ広場周辺にて「Outdoor MOVIE NIGHT」を開催した。10代から60代の幅広い年齢層の方、延べ22人に来場していただいた。夜間の屋外映画館開催にあたり、行ったことは、①巨大スクリーン設置、②キャンドルライト使用による会場のライトアップ、③「三菱アウトランダーPHEV」使用による電力の供給、④温かい飲食物を提供して下さるフードトラックの方等への出店依頼、⑤こたつ・毛布の設置の5点である。来場していただいた方へのアンケートによると、「普段経験できないことができた」、「雰囲気良かった」などの肯定的な意見をたくさんいただいた。「次回も参加したい」との声も多く、城山公園の新たな利用方法の提案としては大きな前進であったと考えられる。また、イベントには参加していただけなかった

が、会場設営中に興味を持ち話かけていただいたり、「用事があって今回は参加できないが、このようなイベントがまたあればぜひ参加したい」との声をいただいたりすることができた。その一方で、「夜の城山公園のイメージは変化したか」という問いに対しては、約7割の方が「変化していない」と回答している。イベント告知が不十分であり、イベントを目的に来場した方が少なかつたため、暗いイメージや人が少ないイメージを払拭するには効果が弱かつたのではないだろうか。

ただし、夜の城山公園に足を運んでいただくこともでき、映画投影やライトアップにより課題であった夜の城山の安全面・防犯面を解決することができた。微力ながら城山公園の活性化に貢献することができたことは成果と言えるだろう。

今回のイベントで来場してくださった方は、10代の若者が多く、今後夜の城山公園を継続して活性化していくためには「若者世代にとって魅力あるものであること」がキーワードになりそうだ。「屋外映画館」のようなイベントを、冬の寒い時期ではなく、春先、秋口などの過ごしやすい環境下で継続して行っていくことが重要であると考えられる。しかし、城山公園という公共の場で継続した活動を行っていくことは容易いことではない。事前準備の大変さはもちろんのこと、野外でのイベントになるため、天候やその日の気温などに左右されやすい。また、今後イベントの規模を拡大していくためには電力不足が懸念される。今回は「屋外映画館」を開催したが、それらをクリアしていけるイベントはそれ以外にもあるのではないか。今後も検討を重ねていきたい。



会場の様子



広告用フライヤー



2-3 | メディア制作

今年度も引き続き、UDCMの活動やまちなかの情報発信を目的として、まちなかマガジン「もぶる」の発行と、FM愛媛「まち@ラヂ」の企画制作を行なった。

1) まちなかマガジン「もぶる」

UDCMの活動及びまちなかの情報発信を行うため、学生や市民がそれぞれの視点と生活観からまちやまちづくりを考えながら紙面づくりを行い、そのプロセスを通じて、参加者相互の交流促進、紙面づくりのスキルアップ、文章力の向上、コミュニケーション能力の向上を図っている。今年度は、12～15号を発行した。なお、本雑誌は、今年度末号をもって閉刊となった。



もぶるマガジン 表紙

2) FM 愛媛「まち@ラヂ」

今年度も毎週水曜日11:40-11:55の枠で放送を行った。放送した番組の日程タイトル等は次のページの表の通りである。

3) ホームページ及びパンフレットのリニューアル

UDCMの情報発信メディアとして利用してきたホームページおよびパンフレットを、拠点のリニューアルとともに更新した。デザインは、RIE DAIFUKU DESIGNの大福理絵さんに依頼した。ホームページについては、UDCMの活動紹介と「もぶるラウンジ」の紹介・案内を分けて整理すること、声ページやスタッフ紹介など、UDCMの活動の様子が伝わるような構成・デザインを意識した。



まち@ラヂ



空間デザインマネジメント

専門的な知見に基づき、都市空間の将来像の検討や都市整備及び民間開発事業に対するアドバイスを行っています。



松山2000デザイン (2018-)



松山まちづくり2030ビジョン (2016)



新大黒字地区西開発 (2016-)



ホームページ



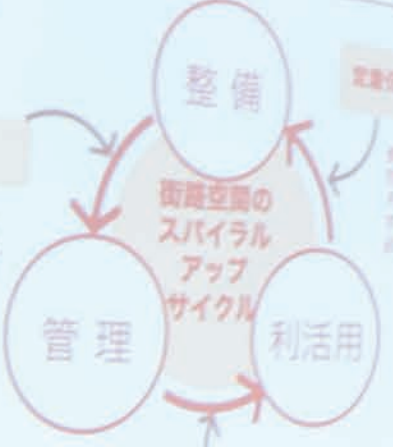
パンフレット

回	日付	タイトル	ゲスト	司会
第205回	2019.04.03	野志市長インタビューPart 32 -高校生タウンミーティング-	野志市長	尾崎 信
第206回	2019.04.10	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(花園町と正岡子規)	松本館長	樋口 時子
第207回	2019.04.17	松山の人にインタビュー(絵本作家アーティスト:河端由美香)	河端由美香	樋口 時子
第208回	2019.04.24	松山アーバンデザインスクールについて	上市 輝	樋口 時子
第209回	2019.05.01	野志市長インタビューPart 33 -余土地区タウンミーティング-	野志市長	尾崎 信
第210回	2019.05.08	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(松山総合公園①)	松本館長	樋口 時子
第211回	2019.05.15	松山の人にインタビュー(笑顔作家アーティスト:くるる)	くるる	田村 順秋
第212回	2019.05.22	松山の街の特徴	松村 暢彦	上市 輝
第213回	2019.05.29	もし大学教員がまちあるきをしたら①	松村 暢彦	上市 輝
第214回	2019.06.05	野志市長インタビューPart 34 -浅海地区タウンミーティング-	野志市長	尾崎 信
第215回	2019.06.12	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(松山総合公園②)	松本館長	樋口 時子
第216回	2019.06.19	松山の人にインタビュー(現代音頭作曲家:山中カメラ)	山中 カメラ	平林 いさこ
第217回	2019.06.26	もし大学教員がまちあるきをしたら②	片岡 由香	上市 輝
第218回	2019.07.03	野志市長インタビューPart 35 -清水地区タウンミーティング-	野志市長	尾崎 信
第219回	2019.07.10	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(杖ノ瀬公園)	松本館長	樋口 時子
第220回	2019.07.17	市民冊子MOBURUについて	板垣 義男	田村 順秋
第221回	2019.07.24	もし大学教員がまちあるきをしたら③	羽鳥 剛史	上市 輝
第222回	2019.07.31	松山アーバンデザインスクールの途中経過報告	羽鳥 剛史	上市 輝
第223回	2019.08.07	野志市長インタビューPart 36 -久谷地区タウンミーティング-	野志市長	尾崎 信
第224回	2019.08.14	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(レインボーハイランド)	松本館長	樋口 時子
第225回	2019.08.21	NPOサポートセンターについて	白石 悟、山本 千絵	田村 順秋
第226回	2019.08.28	もし大学教員がまちあるきをしたら④	四戸 秀和	上市 輝
第227回	2019.09.04	野志市長インタビューPart 37 -日浦タウンミーティング-	野志市長	尾崎 信
第228回	2019.09.11	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(柳井町)	松本 館長	樋口 時子
第229回	2019.09.18	愛媛松山に初上陸アーティストインタビュー(雨ふらしカルテット)	雨ふらしカルテット	田村 順秋
第230回	2019.09.25	もし大学教員がまちあるきをしたら⑤	山中 亮	上市 輝
第231回	2019.10.02	野志市長インタビューPart 38 -河野タウンミーティング-	野志市長	尾崎 信
第232回	2019.10.09	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(萱町)	松本館長	樋口 時子
第233回	2019.10.16	松山の人にインタビュー(松山無声映画上映会:田中淳)	田中 淳	田村 順秋
第234回	2019.10.23	松山アーバンデザインスクールの途中経過報告	志田尚人	上市 輝
第235回	2019.10.30	松山の人にインタビュー(道後の山澤商店6代目:山澤満)	山澤 満	上市 輝
第236回	2019.11.06	野志市長インタビューPart 39 -垣生地区タウンミーティング-	野志市長	尾崎 信
第237回	2019.11.13	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(道後①)	松本館長	樋口 時子
第238回	2019.11.20	松山の人にインタビュー(松山シネマルナティック支配人:橋本達也)	橋本達也	田村 順秋
第239回	2019.11.27	もし大学教員がまちあるきをしたら⑥	山口信夫	上市 輝
第240回	2019.12.04	野志市長インタビューPart 40 -八坂地区タウンミーティング-	野志市長	尾崎 信
第241回	2019.12.11	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(道後②)	松本館長	樋口 時子
第242回	2019.12.18	松山の人にインタビュー(フリーランス保育士:戸塚知美)	戸塚知美	樋口 時子
第243回	2019.12.25	松山アーバンデザインスクール5期生の活動報告	学生・羽鳥剛史	上市 輝
第244回	2020.01.01	野志市長インタビュー	野志市長	尾崎 信
第245回	2020.01.08	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(道後③)	松本館長	樋口 時子
第246回	2020.01.15	愛媛大学の授業について①(愛媛大学:仲道雅輝)	仲道雅輝	田村 順秋
第247回	2020.01.22	愛媛大学の授業について②(愛媛大学:仲道雅輝)	仲道雅輝	田村 順秋
第248回	2020.01.29	松山の人にインタビュー(椿のおもてなしの活動について)	渡部千恵美・武井泰子	田村 順秋
第249回	2020.02.05	野志市長インタビューPart 41 -伊台地区タウンミーティング-	野志市長	尾崎 信
第250回	2020.02.12	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(ロブウェー通り①)	松本館長	樋口 時子
第251回	2020.02.19	アーバンデザインスタジオの取組みについて	学生・四戸秀和	上市 輝
第252回	2020.02.26	もし大学教員がまちあるきをしたら⑦	尾崎 信	上市 輝
第253回	2020.03.04	野志市長インタビューPart 42 - 地区タウンミーティング-	野志市長	尾崎 信
第254回	2020.03.11	松本館長とめぐる「まつやま歴史散歩」(ロブウェー通り②)	松本館長	樋口 時子
第255回	2020.03.18	坂の上の雲ミュージアム展示について	松本館長	樋口 時子
第256回	2020.03.25	松山アーバンデザインセンターの今年度の活動報告	柳原 卓	上市 輝

まち@ラヂ放送記録 2019



管理 × 利活用 によるスパイラルアップサイクル



定量化/見直し

現状の空間により
問題を把握し、
その問題を克服し
るために必要な
改善

安定化

現状が常に
安定している
状態が

活性化・実践

豊かな空間の使い方を
目指して活性化・
実践を通じた利活用
が必要

03 | 研究活動



- 3-1. アーバンデザイン研究会
- 3-2. 社会実験効果検証
- 3-3. 既成市街地型UDC研究会
- 3-4. ビジネスツーリズム研究

3-1. アーバンデザイン研究会

今年度、アーバンデザイン研究会は計5回実施した。
それぞれの会の概要は右記の通りである。

Vol.12「ストリートデザインマネジメントの現在」

ゲスト講師：野原卓（横浜国立大学教授）

2019.05.25

花園町通りの利活用の取り組み展開することを意図し、ストリートのデザインマネジメントに関するレクチャーを企画し実施した。野原氏からは、公共空間マネジメントに関する概念整理から、全国各地で関わられている取り組み事例を詳細に紹介いただいた。



左：フライヤー画像 / 右：当日の実施風景

Vol.13「駅とランドスケープデザイン」

ゲスト講師：村田周一氏（高野ランドスケープデザイン）

2019.08.03

駅を対象地として行っているアーバンデザインスタジオの企画として実施した。村田氏から、旭川駅の事例を中心に、駅周辺にある自然資源の重要性、そのデザイン検討のポイントについてお話いただいた。



左：フライヤー画像 / 右：当日の実施風景

Vol.14「コミュニケーション・デザインの実践」

ゲスト講師：加藤武志氏（まち楽房有限会社）

2019.10.01

JR 松山駅の土地利用勉強会にも協力いただいている加藤氏に、まちづくりに必要なコミュニケーションデザインの理念や思想、ノウハウ等を実践的なワークショップ形式でお教えいただいた。



左：フライヤー画像 / 右：当日の実施風景

Vol.16「商業集積地の将来像」

ゲスト講師：泉英明氏（ハートビートプラン）

2020.02.03

商店街を対象として行っているアーバンデザインスタジオの企画として実施した。泉氏からは、西日本を中心とする商業集積地に関わる公共空間のあり方、その使い方などについてレクチャーいただいた。研究会の後半では、実際にスタジオメンバーが検討している提案資料のエスキースを行い、それぞれのグループの提案にコメントをもらった。



左：フライヤー画像 / 右：当日の実施風景

Vol.15「まちなか広場のつかい方づくり方」

ゲスト講師：山下裕子氏

2019.12.03

花園町通りおよびもぶるラウンジの運営に関しての方法論を検討することを目的としてレクチャーを企画し実施した。山下氏からは、公共空間をマネジメントする上での考え方から、具体的な実践の方法論、そしてそれに必要な空間など、細かくアドバイスをいただいた。研究会の後半は、UDCM スタッフのみのワークショップを開催し、学生スタッフを含めた我々スタッフのこれからの活動の方向性について議論した。



左：フライヤー画像 / 右：当日の実施風景

3-2. 社会実験効果検証

UDCMでは、松山市都市整備部都市デザイン課による「松山市中心市街地賑わい再生社会実験」の業務を受託している。2014年から2016年まではアドバイザーとして、2017年から2018年末までは運営者として、湊町三丁目の「みんなのひろば」「もぶるテラス」を拠点とした中心市街地の賑わい再生に取り組んできた。松山市は、これら湊町三丁目の社会実験拠点を花園町通りへ移転させることを決定し、「もぶるテラス」は2018年11月18日に、「みんなのひろば」は2019年1月27日にそれぞれ閉鎖し、新たに花園町通りにて「もぶるラウンジ」がオープンした。

ここでは、湊町三丁目における約4年間の活動がどのような効果をもたらしたのかを分析することを目的に行った効果検証について報告する。

1) 社会実験のねらい

本社会実験は、まちなかの低・未利用地（青空駐車場や空き店舗等）を広場や交流スペースに転用し、そこで様々なイベント等を実験的に実施。以下の2つの観点から、効果を検証することを目的としている。

- ・賑わい再生に向けた効果的・持続的な仕組み
- ・中心市街地の居住環境改善

「みんなのひろば」

運営期間	2014年11月～2019年1月
面積	約370m ²
設備	芝生広場、ミニ噴水、土管、手押しポンプ、ベンチなど
利用時間	月～金 10:00～20:00 土日祝日 10:00～18:00
利用形態	一般利用・占有利用（無料）
利用者数	延べ利用者数：約22.8万人 約4,900人/月

「もぶるテラス」

運営期間	2014年11月～2018年11月
面積	約80m ²
設備	イス・テーブル、ライブラリー、多目的トイレなど
利用時間	月～金 10:00～20:00 土日祝日 10:00～18:00
利用形態	一般利用・占有利用（無料）
利用者数	延べ利用者数：約9.1万人 約1,800人/月

2) 施設の概要

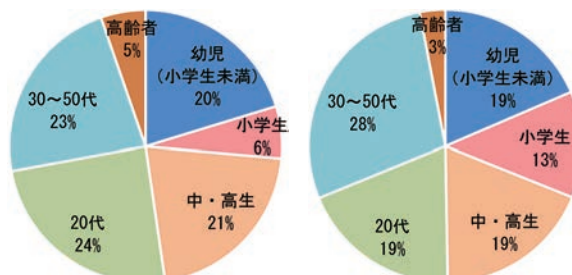
本社会実験の一環として「みんなのひろば」と「もぶるテラス」が設置・運営された。

3) 利用者の様子

みんなのひろば（以下、ひろば）は、平日は思い思いの時間を過ごす利用者の様子が見られ、休日は音楽イベントや絵本の読み聞かせ会等が開催される日もあり、市民の憩いの場として多様な世代に利用されていた。

もぶるテラス（以下、テラス）は、平日は飲食をしながらくつろぐ方や休憩に立ち寄り、おしゃべりを楽しむ利用が主で、休日はトイレ利用や展示物閲覧が平日よりも増く、セミナー等プログラムが開催される日は参加者で溢れました。

ひろばもテラスも利用者アンケート結果（2016年度、2017年度実施）からは高い満足度を得ている。



利用者の世代 (平日・累計)

利用者の世代 (休日・累計)

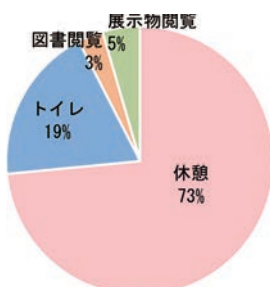
4) 開催された様々なイベント等

ひろばやテラスを占有して開催されていたイベント等の件数は、ひろば(2014.11～2019.1)は計83件、テラス(2014.11～2018.11)は計865件。このうち、一般の個人・団体が実施した件数は、ひろばが35件、テラスが500件であった。またこれらのイベント等は次の3種類に整理することができる。

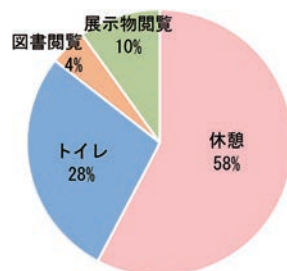
- ・公開イベント：誰でも参加できるもの
- ・申込制イベント：誰でも参加できるが定員制、又は事前申込が必要なもの
- ・グループ活動：特定の団体・組織に属する人のみ参加できるもの

ひろばでは一般公開のイベントが、テラスではグループ活動が多く実施された。

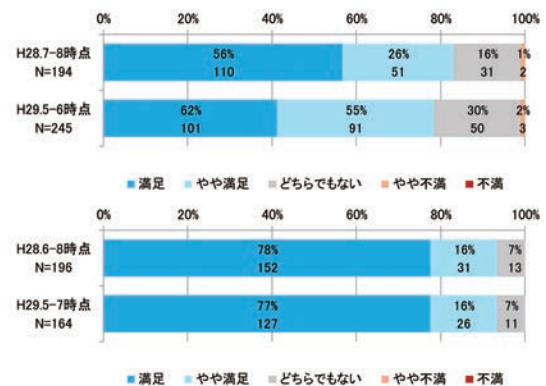
また、イベント等の参加延べ人数を整理すると「飲食・物販イベント」「子ども向けイベント」の集客数が多かった。



利用者の行動(平日・累計)



利用者の行動(休日・累計)



表一みんなのひろば参加延べ人数ランキング※

順位	プログラム名	延べ参加人数	延べ開催日数
1	お城下マルシェ	2,503 人	4 日
2	おさがりフリーマーケット	693 人	1 日
3	まちなかにプールをつくる	560 人	3 日
4	Early Christmas Time vol.2	479 人	1 日
5	土曜夜市企画	347 人	15 日
6	ひめキュンライブ	288 人	2 日
7	まつやま文具マルシェ	117 人	2 日
8	お城下スプリングフェスタ 連携企画	110 人	2 日
9	まつやまこども 映画祭・前夜祭	107 人	1 日
10	移動動物園	106 人	1 日

表一もぶるテラス参加延べ人数ランキング※

順位	プログラム名	延べ参加人数	延べ開催日数
1	まちなかてくてく ハロウィン・クリスマス もぶる鉄道部	1,204 人	22 日
2	走行会	950 人	4 日
3	編集入門ワークショップ	268 人	25 日
4	ハッピー絵本ライブ	254 人	30 日
5	週末はまちなかで みんなとまなぼう	242 人	12 日
6	えいご Cafe	236 人	9 日
7	手相占い	214 人	38 日
8	ハンドマッサージ 体験	214 人	40 日
9	レゴ®で、 あそんでまちづくり♪	208 人	5 日
10	アーバンデザイン 研究会	192 人	6 日

※参加者の人数を計測していないものは対象外

5) 効果検証の考え方

検証する場所と方法に応じた下記4つの観点から検証を行った。

- A. ひろばやテラスは、どれくらい利用されたのか？（ひろば・テラスについて客観的評価）
- B. 人々は、ひろばやテラスに価値があると感じていたか？（ひろば・テラスについて主観的評価）
- C. ひろばやテラスができて、周辺エリアはどう変化したか？（ひろば・テラスの周辺エリアについて客観的評価）
- D. 人々のまちなかでの行動や周辺の印象はどう変化したか？（ひろば・テラスの周辺エリアについて主観的評価）

6) 検証

前述の内容から一部を抜粋して紹介する。

なお、松山市のホームページ (<https://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/machizukuri/toshikeikaku/Urbanedesign/13850120141022.html>) 及びUDCMのホームページ (<http://udcm.jp/project/hiroba>) にて、

効果を検証する方法		
	客観的評価	主観的評価
効果を検証する場所	みんなのひろば A. ひろばやテラスは、どれくらい利用されたのか？ A-1 利用者数の長期的な増減	B. 人々は、ひろばやテラスに価値があると感じていたか？ B-1 ひろば・テラスへの評価 B-2 ひろば・テラスの継続意向 B-3 利用者満足度
	周辺エリア C. ひろばやテラスができて、周辺エリアはどう変化したか？ C-1 前面道路の通行量 C-2 周辺道路の人通り	D. 人々のまちなかでの行動や周辺の印象はどう変化したか？ D-1 まちなかへの外出頻度と滞在時間 D-2 体験治安・まちなか居住の魅力 D-3 集積のイメージ D-4 人通りの印象 D-5 客層の印象 D-6 来店客数 D-7 売上げ D-8 終了後の代替施設

図一 周辺道路の人通りの増減
(2017年と2013年の人通りの差分)

詳細資料を公開しているの、興味がある方はぜひご覧いただきたい。

① 周辺道路の人通り

周辺道路の人通り※は、ひろば・テラスの設置前後で増加。2017年と2013年の人通りの差分をみると、銀天街の北側の道路は3.5倍に増え、うち、ひろば前面道路は3.3倍に増えた。

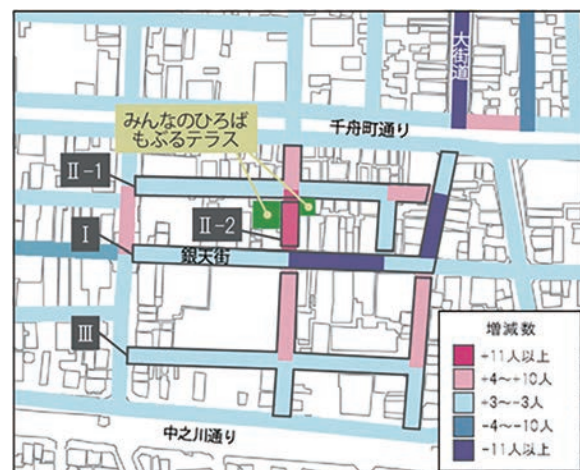
※「人通り」の調査方法：自転車に取り付けたビデオカメラで街路の状況を撮影し、道路上で歩いていたり立ち止まっていたりする人の数（＝歩行滞留者数）を計測

② 周辺住民からの評価

アンケート回答者（2015.3、2015.8-9、2016.2）のうち約5割が「ひろば・テラスができて非常に良かった」と回答。ひろば・テラス共に「子育て世代がまちで過ごすために重要」との回答が多い。

問. ひろば・テラスができてどう考えるか

また、アンケート回答者（2015.3、2019.1-2）のうち約6割が「まちなか居住の魅力が向上した」と回答し、「まちなかでの滞在時間」や「外出頻度」が増えたと感じた方の割合が約4年間で2倍以上に増えている。



表一 周辺道路の人通りの増減
(上図の枠内の人通り数合計を記載)

問. ひろば・テラスがあることで、あなたのまちに対する行動や意識に変化はあったか

7) まとめ

周辺道路の人通りは3倍以上に増加。「飲食・物販イベント」「子ども向けイベント」が特に集客数が多く、このエリアの賑わいづくりに効果的だと考えられる。また、そのようなイベントを開催する一般の方々の増やしていくことが運営団体の負担軽減につながり、持続的な賑わい再生に繋がると考えられる。

周辺住民アンケート回答者のうち約5割が「ひろば・テラスができて非常に良かった」と回答、少数ではあるが「駐車場の方が良かった」等の意見もあった。まちなか居住の魅力が向上したとする方が約6割おり、ひろば・テラスを重要とする理由は「子育て世代の住民のため」という回答が約7割で最多。ひろば・テラス周辺には緑地や街区公園が少ないことが影響していると推察される。

これらのことから、ひろば・テラスの設置・運営は賑わい再生の効果的・持続的な仕組みとしても中心市街地の居住環境の改善にも効果があった。

ひろば・テラスを終了することになったとき、市民の方々

から惜しむ声が上がった。それだけ、まちなかに必要な「交流と憩いの空間」であったと考えており、特にひろばについては半数近くの方が代わりになる場所を見つけられずにいることが、終了後の利用者アンケート調査でわかった。

ひろば・テラスのような空間のニーズは高く、松山の中心市街地にはそれらの代わりになるような新しい「まちなかの小空間」が求められている。

	ひろば テラス なし 平成25年	ひろば テラス あり 平成29年	比
[I] 銀天街	213人	172人	0.8倍
銀天街の [II-1,2] 北側の道路	13人	46人	3.5倍
うち、 [II-2] 前面道路	9人	30人	3.3倍
銀天街の [III] 南側の道路	9人	17人	1.9倍



テラス閉鎖までに寄せられた利用者からのメッセージ

3-3. 既成市街地型 UDC 研究会

UDCMでは、これまでの取組によりアーバンデザインに関するノウハウや実績が蓄積しつつある。今後は、これを適切に整理・分析・評価していくことが重要になる。この文脈から、昨年度はロジックモデルを用いた事業評価を行った。今年度は、全国のUDCのうち、同じ既成市街地に拠点を置くUDC（大宮、柏、高島平、太田等）のスタッフと情報交換を行いつつ、それぞれの事業を比較的に研究することに取り組んだ。

UDC イニシアチブ、UDCO、UDC2、OCTCのメンバーと議論し、UDCO（大宮）とUDC2（柏）を中心に、組織体制と事業における公民学の連携バランスを比較する内容で論文化を進めた。詳しい報告は論文の完成を待たれたい。

なお、プロジェクトの財源に関する比較の結果、UDCMで実施していない方法として、協賛 / 負担金・収益事業・エリアマネジメント・指定管理などがあることがわかった。収益事業を行なっている他のUDCは、いずれ

も一般社団法人などの法人格を有しているが、法人格を持たないUDCMは、愛媛大学が契約等の窓口となっており、収益事業等は実施できない。先日立ち上がったNPOのUDNM（松山アーバンデザインネットワーク）がこれを補うことが期待されるが、将来的には法人格のある組織を立ち上げるなどして、財源を多様化させ、より安定的な運営体制を検討する余地があると考えられる。

<他の既成市街地型 UDC で採用されているプロジェクトの財源>

- 協賛 / 負担金：プロジェクトごとに、プロジェクトの受益者から募る協賛 / 負担金。
 - 収益事業：都市計画関連の検討業務の受託、物品販売等。
 - エリアマネジメント：エリマネとして行う収益事業。スペースや広告枠の貸し出し等。
 - 指定管理：公共施設の指定管理の受託。
-



図 3-3-1. 打合せ風景

3-4. ビジネスツーリズム研究

仕事に伴って訪れた地域を楽しんでもらう観光スタイルを「ビジネスツーリズム」と名付け、都市や地域資源の情報を積極的に発信することを通じて、主に出張者の回遊行動・経済活動を促進し、プライベートでの再訪や二拠点居住等へ誘導していく策を検討することを目指した。

今年度は、いよぎん地域経済研究センター（IRC）およびNECソリューション・イノベータ（NES）と協働し、検討を進めた。実施したアンケート結果より、年間およそ150万人程度いると考えられる松山出張者は、9割が宿泊を伴うが、約4割が困ったり不満を感じていることが判明した。更なるアンケートやワークショップの開催を通じて課題抽出と対策検討を行なった。特に、出張での来街者へ必要な情報提供を行うとともに、その移動データ等を取得し、現在検討を進めているスマートシティへつなげていくことであると考え、その可能性について検討を行った。

<おいでなもしワークショップ開催日とテーマ>

2019.7.2 第1回おいでなもしワークショップ アイデア発掘ワーク等

2019.9.14 第2回おいでなもしワークショップ



図 3-4-3. 第1回おいでなもしワークショップの様子



図 3-4-4. 第2回おいでなもしワークショップ成果例

松山におけるビジネスツーリズムを考える
おいでなもしワークショップ
～出張者、サービス提供者、そして市民もワクワクするアイデアを考えよう～

趣旨 ビジネスツーリズムとは、仕事に伴って訪れた地域を楽しんでもらう観光スタイルです。私たちは、松山におけるビジネスツーリズムの創出や発展について研究・検討を行っています。仕事で訪れた人は松山にどんな印象を持っているのだろうか？500人に行ったアンケート結果から、そして仕事で訪問中の皆さんや松山の市民の皆さんとの対話から、ビジネスツーリズムの課題と可能性を探ります。これまで気づかなかった魅力を見つけこれからの松山をワクワクさせるアイデア発掘の時間を是非お楽しみください。

日時 7/2 (火) 14:30-17:00

会場 いよぎん地域経済研究センター 2F 会議室
住所：松山市三番町 5-10-1 伊予銀行本店南別館 2F
TEL：089-931-9705

●お申し込みの際は、公共交通機関のご利用をお願いします。
(伊設の駐車場は、台数に限りがあり、利用料金も30分200円と近隣より少し高めです。)

内容 ●全国の「松山へ出張に来たことがある方」500名を対象とした、松山市での出張時の行動等に関するアンケート結果のご紹介
●出張で松山に来られる方に対するサービスや仕組みづくりなど、未来に向けたアイデア発掘ワーク など

主催 愛媛大学・いよぎん地域経済研究センター・NECソリューションイノベータ

愛媛大学 | いよぎん地域経済研究センター | NECソリューションイノベータ | Urban Design Center

図 3-4-1. 第1回おいでなもしワークショップチラシ

松山におけるビジネスツーリズムを考える
おいでなもしワークショップ
～「また来たい」につながるヒントを見つけよう～

趣旨 ビジネスツーリズムとは、仕事に伴って訪れた地域を楽しんでもらう観光スタイルです。私たちは、松山におけるビジネスツーリズムの創出や発展について研究・検討を行っています。今回は、出張で松山を訪れている方と地元在住の方とで実際にまち歩きをし、それぞれの街に対する強みや思いのギャップを探ります。これまで気づかなかった課題や魅力を見つけ、これからの松山をワクワクさせるアイデア発掘の時間をぜひお楽しみください。

日時 9/24 (火) 14:30-17:00

会場 いよぎん地域経済研究センター 2F 会議室
住所：松山市三番町 5-10-1 伊予銀行本店南別館 2F
TEL：089-931-9705

●お申し込みの際は、公共交通機関のご利用をお願いします。
(伊設の駐車場は、台数に限りがあり、利用料金も30分200円と近隣より少し高めです。)

内容 ●第1回「おいでなもしワークショップ」の成果のご報告
●まち歩きフィールドワーク
●出張者の楽しみたいこと・出張あるある vs 在住者のオススメ・解決法 など

▶ディレクター 尾崎 慎 (松山アーバンデザインセンター/愛媛大学)
▶ファシリテーター 角野 孝子 (NECソリューションイノベータ)

主催 愛媛大学・いよぎん地域経済研究センター・NECソリューションイノベータ

愛媛大学 | いよぎん地域経済研究センター | NECソリューションイノベータ | Urban Design Center

図 3-4-2. 第2回おいでなもしワークショップチラシ

おわりに

UDCM 副センター長 松村 暢彦

6年目のUDCMは、数々の受賞にも示されているようにこれまでの活動の実り時期であると同時に花園町に移転して1年、これまでの活動を続けながらも新しい種まきを始めた年にもなった。

まず、空間デザインマネジメントに関しては、「松山2060ビジョン」を具体的に進めた点が特筆される。長期の行政計画でも10年、20年がせいぜいのところ、今から40年先の松山を具体的な数値、歴史調査を踏まえて学生たちと一緒に議論しながら進めていった。この時間は私の教員生活の中でも最もエキサイティングであった。18歳の松村暢彦は、自分が死んでも残るものを志向して土木工学科を選んだはずであったが、今まで明確に意識して活動をしてこなかった。40年先を真剣に考えて形にする活動は関わった人たちの成長を促すことを実感することができた。さらに、花園にあるという立地を生かして市駅前広場の空間改変に対する支援のほか市駅前のステークホルダーの方々との勉強会を実施するなどまちづくりのリテラシーを高める活動を行ってきた。同様の活動をJR松山駅周辺地区の都市デザインでも行ってきており、松山のツボである市駅前、JR駅前は変わる今、それに関わる人もかわるチャンスとして捉えて活動を展開しつつある。スマートシティについてもスマートシティを目的とするのではなく、ビジョンを実現する手法、ツールとして活用できるよう公民学が連携したコンソーシアムを組織して事業を推進してきている。

プログラムデザインに関しては、花園の新しい拠点として機能しつつある「もぶるラウンジ」をこれまでよりも一層、松山ブンカ・ラボと連携しながら松山のまちづくり情報の発信を進めていきたい。花園町には道路空間の再配分事業により細長い公共空間ができています。この公共空間をどう使いこなしていくか地域の方々との協力関係のもと、様々な実践を続けていくことが必要とされる。空間が出来上がって終わりではなく、これまで車のものであった道路空間をどう人の手に取り戻していくか、その方法論、実践論を蓄積していきたい。5年目をむかえるアー

バンデザインスクールは松山のホットスポットであるL字の再開発地区、JR駅前広場、城山公園、郊外の三津浜などフィールド重視の実践を行った。このほか、研究活動としてアーバンデザイン研究会をヴィジョンと連携して行ったり、みんなのひろば、もぶるテラスの社会実験効果検証を行ったり、大学の専門知を活かした活動も展開できた。

松山市の中心市街地の活性化は依然として継続的課題であるとともに、伊予鉄松山市駅、JR松山駅の周辺整備も具体化しつつあり、松山の次の100年の社会基盤整備時期をむかえることからヴィジョンの独自性がより重要になってくる。ひと育ても含め、引き続き、公民学の連携のもとに、着実な成果を目指して活動・研究を進めていきたい。

資料

活動履歴

2019年4月

- 1日-2020.03.31:もぶるラウンジ利用者数調査
- 3日:もぶるラウンジ運営学生スタッフミーティング
- 3日:第205回「まち@ラヂ」放送
- 4日:まちなかマガジンもぶる編集ワークショップ
- 10日:第206回「まち@ラヂ」放送
- 10日:第13回松山市都市再生協議会
- 10日:松山駅まち会議(作業部会)
- 15日:既成市街地UDC研究会
- 17日:第207回「まち@ラヂ」放送
- 17日:道後温泉活性化懇談会(観光資源関係)
- 18日:JR松山駅まちづくり土地利用勉強会(第1回)
- 21日:JAZZLIVE~Onthesunnysideonthestreet~inお城下マルシェ
花園
- 22日:視察対応(豊橋科学技術大学・小野悠講師・学生、計7名)
- 23日:まちなかマガジンもぶる編集ワークショップ
- 24日:第208回「まち@ラヂ」放送
- 24日:視察(九州大学学研都市機構(UDCQ)等、計2名)

2019年5月

- 1日:第209回「まち@ラヂ」放送
- 7日:もぶるラウンジ運営学生スタッフミーティング
- 7日:市駅前商店街勉強会
- 8日:第210回「まち@ラヂ」放送
- 9日:「公共デザイン研究セミナー ~これからの知的生産と公共調達のあり方を考える~ in 高松」(尾崎登壇)
- 11日-12日:アーバンデザインスクール基礎編
- 14日:ヴィジョン検討会(環境)
- 15日:第211回「まち@ラヂ」放送
- 18日:視察(愛媛大学社会共創学部地域資源マネジメント学科文化資源マネジメントコース巡検、計40名程度)
- 19日:みんなで演奏会 in お城下マルシェ花園
- 19日:視察(伊予市商業組合・伊予市役所・荒谷建設、計21名)
- 21日:JR松山駅まちづくり土地利用勉強会(第2回)
- 21日:まちなかマガジンもぶる編集ワークショップ
- 22日:第212回「まち@ラヂ」放送
- 23日:通行量調査(みんなのひろば前面道路・平日)
- 23日:視察(愛大社会共創学部1年、計35名)
- 24日:アーバンデザインスクール実践編#レクチャー(横浜国立大学野原卓先生)
- 25日:アーバンデザイン研究会 Vol.12「ストリートデザインマネジメントの現在」(横浜国立大学野原卓准教授)
- 26日:通行量調査(みんなのひろば前面道路・休日)
- 29日:第213回「まち@ラヂ」放送
- 30日-2020.03.31:地域資源MAPづくりプロジェクト「花園今昔ものがたり」

31日:アーバンデザインスクール実践編#2

2019年6月

- 1日:通行量調査(花園町通り西側、東側・休日)
- 5日:第214回「まち@ラヂ」放送
- 6日:通行量調査(花園町通り西側、東側・平日)
- 9日-23日:もぶるラウンジ企画展「旅と鉄道展」
- 11日:もぶるラウンジ運営学生スタッフミーティング
- 12日:第215回「まち@ラヂ」放送
- 13日:アクティビティ調査・予備調査(花園町通り、市駅前・平日)
- 16日:鉄道模型ミニ走行会(もぶる鉄道部) in お城下マルシェ花園
- 18日:まちなかマガジンもぶる編集ワークショップ
- 19日:第216回「まち@ラヂ」放送
- 21日:視察(清水建設・東京大学、3名)
- 21日:アーバンデザインスクール実践編#3
- 22日:イベント参加者アンケート調査(ストリートイベント)
- 22日:ストリートイベント in 花園町通り「道de遊ぼう」
- 23日:アクティビティ調査・予備調査(花園町通り、市駅前・休日)
- 26日:第217回「まち@ラヂ」放送

2019年7月

- 1日:もぶるラウンジ運営学生スタッフミーティング
- 1日:既成市街地UDC研究会
- 1日-20日:映像上映「天の川銀河紀行」 in もぶるラウンジ
- 2日:まちなかマガジンもぶる編集ワークショップ
- 3日:第218回「まち@ラヂ」放送
- 4日:視察(東京大学・新建築・NTT都市開発まち歩き、12名)
- 5日:アクティビティ調査・予備調査(花園町通り、市駅前・平日)
- 5日:「東京大学工学部社会基盤学科・基礎プロジェクト最終講評会」(尾崎講師として登壇)
- 5日:視察(韓国(財)地域文化振興院、15名)
- 6日:イベント参加者アンケート調査(ストリートイベント)
- 6日:ストリートイベント in 花園町通り「道de学ぼう」
- 7日:アクティビティ調査・予備調査(花園町通り、市駅前・休日)
- 10日:第219回「まち@ラヂ」放送
- 12日:アーバンデザインスクール実践編#4
- 16日:まちなかマガジンもぶる編集ワークショップ
- 17日:第220回「まち@ラヂ」放送
- 20日:天体観望会 in お城下マルシェ花園
- 20日:松山ブンカラゴ主催「まちと文化とアートの学校」(尾崎登壇)
- 21日-2019.09.18:もぶるラウンジ活動写真スライドショー上映
(2019/1-2019/6活動分)
- 22日:「愛媛大学社会連携推進機構研究協力会特別講演会」特別講演
(尾崎登壇)
- 23日:ヴィジョン検討会(防災)

24日：第221回「まち@ラヂ」放送
 26日：松山駅前広場イベント「よいまち」
 31日：第222回「まち@ラヂ」放送
 31日：松山スマートシティ推進コンソーシアム設立・参加

2019年8月

1日：JR松山駅まちづくり土地利用勉強会
 1日-2020.03.31：アクティビティ調査・長期調査（花園町通り）
 2日：国土交通省スマートシティ先行モデル事業に採択
 3日：アーバンデザインスタジオ Vol.1 最終講評会
 3日：アーバンデザイン研究会 Vol.13「駅とランドスケープデザイン」（高野ランドスケーププランニング村田周一氏）
 3日-10.31：アーバンデザインスタジオ成果パネル展示
 7日：第223回「まち@ラヂ」放送
 9日：アーバンデザインスクール実践編 #5
 14日：第224回「まち@ラヂ」放送
 19日：市駅前商店街勉強会
 19日：市駅前商店街勉強会
 20日：まちなかマガジンもぶる編集ワークショップ
 21日：もぶるラウンジ運営学生スタッフミーティング
 21日：第225回「まち@ラヂ」放送
 28日：第226回「まち@ラヂ」放送
 31日-09.01：UDC イニシアチブ主催「アーバニスト養成講座」（尾崎登壇）

2019年9月

3日：松山駅まち会議（作業部会）
 3日：アーバンデザインスクール実践編 #6
 4日：第227回「まち@ラヂ」放送
 4日：視察（大成建設株式会社、12名）
 5日：視察（特定非営利活動法人都市デザインワークス、10名）
 6日：道後温泉活性化懇談会（観光資源化関係）
 7日：もぶるラウンジ休日企画レゴ® プール
 8日：もぶるラウンジ休日企画レゴ® プール
 9日：道後温泉活性化懇談会
 11日：第228回「まち@ラヂ」放送
 11日：JR松山駅まちづくり土地利用勉強会
 14日：もぶるラウンジ休日企画レゴ® プール
 15日：通行量調査（みんなのひろば前面道路・休日）
 15日：レゴ® プール in お城下マルシェ花園
 16日：もぶるラウンジ休日企画レゴ® プール
 18日：第229回「まち@ラヂ」放送
 19日：通行量調査（みんなのひろば前面道路・平日）
 19日-10.31：もぶるラウンジ企画展「子規と花園町」
 21日：もぶるラウンジ休日企画レゴ® プール
 22日：もぶるラウンジ休日企画レゴ® プール

25日：第230回「まち@ラヂ」放送
 26日：もぶるラウンジ運営学生スタッフミーティング
 26日：市駅前商店街勉強会
 27日：既成市街地UDC研究会
 28日：もぶるラウンジ休日企画レゴ® プール
 29日：もぶるラウンジ休日企画レゴ® プール

2019年10月

1日：通行量調査（花園町通り西側、東側・平日）
 1日：アーバンデザイン研究会 Vol.14「コミュニケーション・デザイン」（まち楽房加藤武志氏）
 2日：第231回「まち@ラヂ」放送
 2日：アーバンデザインスクール実践編 #7
 5日：通行量調査（花園町通り西側、東側・休日）
 5日：もぶるラウンジ休日企画レゴ® プール
 6日：アクティビティ調査・イベント時調査（花園町通り）
 6日：もぶるラウンジ休日企画レゴ® プール
 9日：第232回「まち@ラヂ」放送
 10日 .12：アクティビティ調査・中期調査（花園町通り、市駅前・休日）
 13日：アクティビティ調査・イベント時調査（花園町通り）
 13日：もぶるラウンジ休日企画レゴ® プール
 14日：もぶるラウンジ休日企画レゴ® プール
 15日：アクティビティ調査・中期調査（花園町通り、市駅前・平日）
 16日：もぶるラウンジ運営学生スタッフミーティング
 16日：第233回「まち@ラヂ」放送
 16日：視察（株式会社パスコ・今治市役所、5名）
 18日：第14回松山市都市再生協議会
 18日：松山駅まち会議
 19日：もぶるラウンジ休日企画レゴ® プール
 19日-2020.01.09：カフェテラス社会実験「花園テラス」
 20日：おばけ探しスタンプラリー in お城下マルシェ花園
 21-11.29：アクティビティ調査・プログラム時調査（花園町通り）
 22日：もぶるラウンジ休日企画レゴ® プール
 23日：第234回「まち@ラヂ」放送
 26日：イベント参加者アンケート調査（ストリートイベント）
 26日：ストリートイベント in 花園町通り「道de音を楽しもう」
 26日-27日：アーバンデザインスクール、GET! にて再開後の活用イメージ演出
 26日-27日：アーバンデザインスクール、JR松山駅前広場で足湯実施
 27日：アクティビティ調査・イベント時調査（花園町通り）
 27日：もぶるラウンジ休日企画レゴ® プール
 30日：第235回「まち@ラヂ」放送
 30日：市駅前商店街勉強会

2019年11月

1日: JR 松山駅まちづくり土地利用勉強会中間報告会
 1日-2日: 第二回まつやま文具マルシェ
 1日-30日: もぶるラウンジ企画展「メデヨムハイク」in もぶるラウンジ
 3日: アクティビティ調査・イベント時調査(花園町通り)
 5日: アーバンデザインスクール実践編 #8
 5日-6日: 視察(横浜市立大学影山ゼミ、1名)
 6日: 第236回「まち@ラヂ」放送
 6日: 視察(小田急電鉄株式会社、6名)
 8日: 視察(さいたま市・イクレイ、4名)
 9日-22日: 花園町来街者アンケート調査
 12日-29日: もぶるテラス・みんなのひろば利用者アンケート調査(追跡)
 13日: 第237回「まち@ラヂ」放送
 13日: 視察(仙台市議会、16名)
 14日: もぶるラウンジ運営学生スタッフミーティング
 14日: 視察(焼津市自治会連合会、35名) 20
 16日: 視察(青森市高度化事業団体連絡協議会、6名)
 17日: ちぎろう!はろう!えがこう! in お城下マルシェ花園
 18日: 視察(渋谷区、3名)
 18日-20日: 周辺店舗アンケート調査(もぶるテラス・みんなのひろば)
 19日: アクティビティ調査・中期調査(花園町通り、市駅前・平日)
 19日: まちなかマガジンもぶる編集ワークショップ
 20日: 第238回「まち@ラヂ」放送
 20日: もぶるラウンジ屋外部分デザインワークショップ
 21日: まちなかプラネタリウムカフェ(星空散歩) in もぶるラウンジ
 23日: アクティビティ調査・中期調査(花園町通り、市駅前・休日)
 23日: アーバンデザインスクール、伊予紘と砥部焼のコラボ商品開発
 25日: 市駅前商店街勉強会
 27日: 第239回「まち@ラヂ」放送
 27日: 視察(豊橋発展会、11名)

2019年12月

3日: まちなかマガジンもぶる編集ワークショップ
 3日: アーバンデザイン研究会 Vol.15「まちなか広場のつかい方・つくり方」
 (山下裕子氏)
 4日: 第240回「まち@ラヂ」放送
 8日: アーバンデザインスクール、城山公園にて映画鑑賞イベントの実施
 8日: JR 松山駅まちづくり土地利用勉強会主催イベント「よいまち」開催
 9日: もぶるラウンジ運営学生スタッフミーティング
 11日: 第241回「まち@ラヂ」放送
 14日: アーバンデザインスクール活動発表会
 15日: せかいに1つだけのクリスマスツリー in お城下マルシェ花園
 17日: 市駅前商店街勉強会
 17日: JR 松山駅まちづくり土地利用勉強会
 18日: 第242回「まち@ラヂ」放送

25日: 第243回「まち@ラヂ」放送

26日: まちなかマガジンもぶる編集ワークショップ

27日-2020.01.31: もぶるラウンジ企画展「メデヨムハイク」in 松山市立
 子規記念博物館

2020年1月

1日: 第244回「まち@ラヂ」放送
 8日: 第245回「まち@ラヂ」放送
 14日: もぶるラウンジ運営学生スタッフミーティング
 14日: 国土交通省スマートシティ先行モデル事業(海外展開追加予算)
 採択
 15日: 第246回「まち@ラヂ」放送
 16日: 通行量調査(みんなのひろば前面道路・平日)
 17日: アーバンデザインスタジオ Vol.2 中間講習会
 17日: JR 松山駅前広場基本設計プロポーザル選考委員会(委員参画)
 17日-2020.02.16: カフェテラス社会実験「花園テラス」
 18日: おしゃフェス in もぶるラウンジ
 19日: 通行量調査(みんなのひろば前面道路・休日)
 19日: こたつ in お城下マルシェ花園
 19日-2020.03.31: もぶるラウンジ活動写真スライドショー上映(2019/1-
 2019/12 活動分)

20日: 視察(東日本旅客鉄道株式会社、4名)

21日: まちなかマガジンもぶる編集ワークショップ

22日: 第247回「まち@ラヂ」放送

22日: 市駅前商店街勉強会

25日: イベント参加者アンケート調査(ストリートイベント)

25日: ストリートイベント in 花園町通り「道 de オリピック」

29日: 第248回「まち@ラヂ」放送

29日: スマートシティ都市マネジメント分科会第一回開催 @ 国土交通省
 (国土交通省と共催)

30日: 視察(武蔵野市役所、6名)

31日: JR 松山駅まちづくり土地利用勉強会

2020年2月

2月: アーバンデザインスクール、三津浜にてファッション誌の制作を実施

1日: 通行量調査(花園町通り西側、東側・休日)

3日: アーバンデザイン研究会 Vol.16「商業集積地の将来都市空間」
 (ハートビートプラン泉英明氏)

4日: 通行量調査(花園町通り西側、東側・平日)

5日: 第249回「まち@ラヂ」放送

12日: 第250回「まち@ラヂ」放送

12日: 市駅前商店街勉強会

13日: もぶるラウンジ運営学生スタッフミーティング

- 13日-28日：花園町周辺店舗アンケート調査
- 16日：こたつ・クロヌリハイク in お城下マルシェ花園
- 16日：スマートシティ意見交換会
(松山スマートシティ推進コンソーシアム主催)
- 17日-31日：クロヌリハイク作品展示
(2月17日お城下マルシェ花園での成果分)
- 18日：視察(エイチ・ツー・オーリテイリング株式会社、2名)
- 19日：第251回「まち@ラヂ」放送
- 19日：まちなかマガジンもぶる編集ワークショップ
- 23日：アーバンデザインスタジオ Vol.2 最終講評会
- 26日：第252回「まち@ラヂ」放送

2020年3月

- 4日：第253回「まち@ラヂ」放送
- 6日：第15回松山市都市再生協議会
- 11日：第254回「まち@ラヂ」放送
- 18日：第255回「まち@ラヂ」放送
- 18日：市駅前商店街勉強会
- 19日：国土交通省スマートシティ先行モデル事業報告書提出
- 25日：第256回「まち@ラヂ」放送

論文、講演、委員、受賞等

1) 論文

- 石井朋紀, 四戸秀和, 古谷純, 石飛直彦 (2019)
「松山市におけるスマートシティ実現に向けた取り組み」
アーバンインフラテクノロジー推進会議, HP 掲載 NoB04, 2019.11

2) 寄稿等

- 「松山市における『移動式まちづくり拠点』」
土木学会誌 Vol.104, No.4, 公益社団法人土木学会, pp.54-57
(尾崎)
- 「歩行者のための都市づくり」
造景 2019, 建築資料研究社, pp.62-69
(尾崎)
- 「生きた余白をつくる」Public Place Review, 一般社団法人国土政策研究会公共空間の[質]研究部会
(尾崎)
- 「公民学が連携するまちづくり 松山アーバンデザインセンター」
2020 ふるさとづくり事例集～こころをよせるそこにかかわる～,
首相官邸ふるさと活性化支援チーム, pp.90-91
(四戸)
- 「飛鳥乃湯泉と街の中の雲にみるまちづくりのメタメッセージ」
文化愛媛第 83 号 (2020.1), 愛媛県文化振興財団, pp.34-37
(四戸)

3) 講演、メディア出演等

- 「松山における都市デザインのマネジメント」
公共デザイン研究セミナー～これからの知的生産と公共調達のあり方を考える～ in 高松 @ 高松市・情報通信交流館 e- とびあ・かがわ BB スクエア, 土木学会, 30 名, 2019.05.09
(尾崎)
- 「UDCM の活動報告」
松山市防災教育推進協議会設立共同発表及び記念講演会及び平成 30 年度防災情報研究センター活動報告会 @ 愛媛大学南加記念ホール, 愛媛大学防災情報研究センター, 2019.5.31
(四戸)
- 「まちを再発見する方法」
まちと文化とアートの学校 @ 松山市・愛媛大学, 松山ブンカ・ラボ, 30 名, 2019.07.20
(尾崎)
- 「アーバンデザイン研究部会の活動紹介」
愛媛大学社会連携推進機構研究協力会特別講演会 @ 愛媛大学, 愛媛大学社会連携推進機構, 100 名, 2019.07.22
(尾崎)
- 「道路空間の再生 ～松山市花園町通り～」
アーバニスト養成講座 @ UDCK, UDC イニシアチブ, 50 名, 2019.08.31
(尾崎)
- 「景観を考える手がかり」
松山城眺望景観ワークショップ @ ローブウェイ駅舎会議室, 松山市, 30 名, 2019.11.17
(尾崎)
- 「松山におけるスマートシティの取り組み」
第 60 回土木計画学研究発表会 (秋大会) スペシャルセッション @ 富山大学五福キャンパス, 公益社団法人土木学会, 2019.11.30
(四戸)
- テレビ愛媛「ふるさと絶賛バラエティいーよ!」 2019.12.21
(板東)
- 「松山におけるスマートシティの取り組み」
スマートシティ分科会 @ 国土交通省, スマートシティ官民連携プラットフォーム, 2020.1.29
(四戸)

4) 委員

- 道後温泉活性化懇談会 オブザーバー
(柳原、尾崎、四戸)
- 道後温泉周辺ファサード整備協定運営委員会 顧問
(柳原)
- 松山駅まち会議 作業部会学識者
(四戸)
- 松山駅前広場等整備基本設計(交通計画等検討)業務委託選考委員会 外部有識者
(四戸)
- 松山市駅前広場周辺交通実態調査分析業務委託選考委員会 外部
専門員
(四戸)
- 松山市景観審議会 委員
(尾崎)
- 松山市景観審議会 作業部会委員
(尾崎)
- 松山市下水道マンホール蓋デザイン審査会 審査員
(柳原)

5) 受賞

- 「移動する建築」ゴールデンキューブ賞優秀賞,日本建築家協会
- 「花園町通り」全国街路事業コンクール国土交通大臣賞
※ UDCM は協力として
- 「花園町通り」土木学会デザイン賞最優秀賞
※ UDCM は「主な関係組織」として

運営体制

